

2014年度 事業報告書

学校法人 神戸女学院



はじめに



学校法人 神戸女学院
理事長・院長 森 孝一

神戸女学院は、自由を愛し、民主的な組織運営を尊重するアメリカ・プロテスタント教会の一教派である会衆派教会の海外宣教組織「アメリカン・ボード」から派遣された二人の女性宣教師によって、1875年（明治8年）、神戸に設立されました。2015年に、創立140周年を迎えます。

高等教育機関となった神戸女学院は、1933年（昭和8年）に、現在のキャンパスである西宮市岡田山に移転いたしました。2014年9月には、岡田山キャンパスのウィリアム・メレル・ヴォーリズ設計による12棟の建物が、国の重要文化財に指定されました。名称は「重要文化財 神戸女学院」です。自然や景観を含めて、岡田山キャンパスが重要文化財指定の対象になったのだと理解しています。神戸女学院の先人たちが心から愛し、保存に努めてきたこれらの建物を継承し、ヴォーリズが建築によって表現しようとした人格教育をさらに進展させていきたいと願っています。

神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」は、本学院の教育目標を表現しています。キリスト教を基本とする人格教育を教育の中心に置き、獲得した知識や技術を自分のためだけに用いるのではなく、社会、国家、世界のために貢献することのできる女性を養成すること。これが神戸女学院の教育目標です。

2013年度に大学に設置された「共通英語教育研究センター」では、2014年度には新たに教員の採用を行い、新カリキュラムのための教科書を刊行しました。また図書館新館のラーニングcommonsなどに端末導入を行い、学生の自発的学修環境の充実を進めました。

施設・設備面では、老朽化した旧中高部2号館の建て替え工事が2014年7月に完成し、中等教育を始めた第2代校長（現院長）を記念し、「ヴァージニア・クラークソン記念館」と命名されました。また、中高部のコミュニケーションセンターの本格的な改装工事が、2015年3月に終了いたしました。大学では、文学部1号館の教室の改装、1階女子トイレの全面改修、エレベーターの設置を行い、新社交館のスロープ設置によるバリアフリー化を行いました。

今後も神戸女学院に対しまして、皆さまのより一層のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

I. 法人の概要

1	建学の理念・教育目標	1
2	設置学校・学部・学科等	1
3	ミッションステートメントと基本ポリシー	2
4	校地・校舎	5
5	入学定員・収容定員・在籍者数	7
6	役員・評議員に関すること	9
7	教職員数等に関すること	10
	事務組織図	11
8	法人の沿革	12
	「重要文化財 神戸女学院」ヴォーリズ建築の一般公開について	13
	神戸女学院における寄付募集事業について	13

II. 事業の概要

1	大学総括	14
2	中高部総括	15
3	教育・研究	16
4	高大連携	21
5	地域貢献	23
6	その他の事業	27
7	施設・設備	29
8	入試に関する状況	31
9	留学に関する状況	34
10	卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況	37
11	就職・進学状況等	38

III. 財務の概要

1	2014年度決算の概要	43
2	資金収支計算書	43
3	消費収支計算書	46
4	貸借対照表	50
5	財務データの推移	52

IV. 事業計画

1	今後の運営方針及び2015年度予算編成について	55
2	2015年度事業計画	55
3	2015年度予算書	57

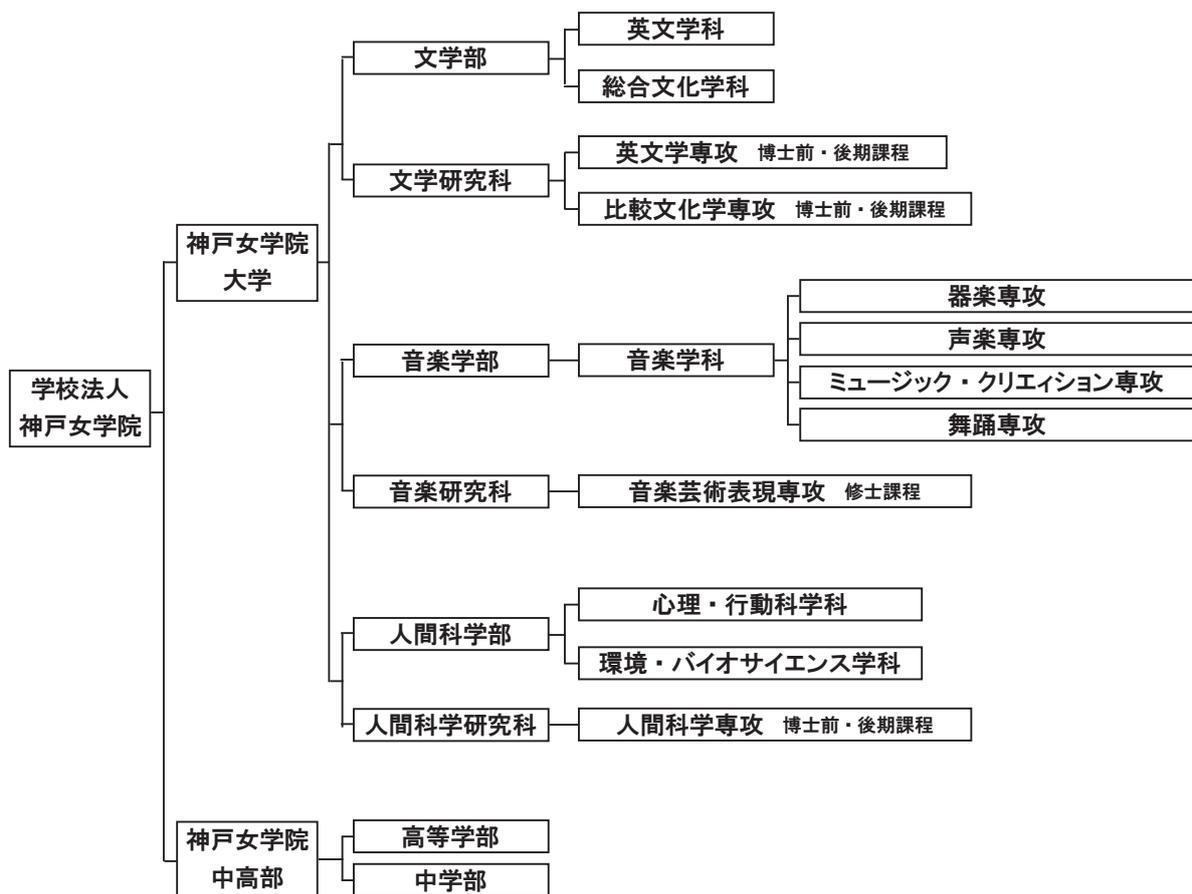
I. 法人の概要

1 建学の理念・教育目標

神戸女学院は、1875年（明治8年）、日本が近代化への一歩を踏み出したその時、アメリカン・ボード中部及び東部婦人伝道会から派遣された宣教師タルカット、ダッドレー両先生によって創立された。当初から、神戸女学院の教育の根幹はキリスト教と国際理解の精神に根ざした全人教育であり、個性を重んじ、自由で自立した教養豊かな女性の育成であった。以来、高い教養と専門的知識、広い視野

と適確な判断力、さらに語学力を育み、神戸女学院の永久標語である「愛神愛隣」の精神のもと、自らが身を置いた時代や環境の中で、自らの使命を自覚し、地域社会や国際社会で活躍する女性を世に送り出してきた。現代も、この建学の精神と基本的教育目標を堅持しながら、急速に変化する社会の要請に対応して、絶えずカリキュラム内容の充実を図っている。

2 設置学校・学部・学科等



3 ミッションステートメントと基本ポリシー

● 大学

ミッションステートメント

神戸女学院大学は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの学科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、幅広い知識と教養と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学部（英文学科及び総合文化学科）、音楽学部（音楽学科）、人間科学部（心理・行動科学科及び環境・バイオサイエンス学科）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

1) 基礎学力と教養の習得

専門教育科目の理解を深め、幅広い視野と知識を持つための全学共通科目（主題コース、入門コース、探求コース、外国語、体育学及びキリスト教教育）を必修科目とします。

2) 専門的知識と技術の習得

専門的な知識と技術を体系的に習得するために、各学科に専門教育科目群を設置します。学科の内容に応じた表現能力、課題設定・問題解決能力、コミュニケーション能力を身につけるため、少人数のゼミ教育・実技指導を行います。

3) リベラル・アーツ&サイエンス教育の推進

専門分野を学びつつ、同時に幅広い知識と教養と応用力を身につけるため、学部学科の壁を越えた教育を推進します。学科専門教育科目の一部を探求コース科目として他学科生に開放し、また、副専攻制度を設け、学科横断的な学修機会を提供します。

4) 国際理解の推進

全学を対象に、通訳を養成する教育方法を応用して、英語運用能力を集中的に伸ばす通訳・翻訳プログラムを行います。また、他者との共生を志す国際理解の精神を育むため、海外の大学・諸機関との交流、多彩な留学、研修プログラムなどを実施します。

5) キャリア形成の支援

専門的知識を活かしたキャリア形成のために教育職員免許状（英語、社会、地理歴史、公民、国語、音楽及び理科）や精神保健福祉士の受験資格など、資格取得のための科目群を設置します。また、キャリア形成のための基本的認識を深める科目群を提供します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に対して教授会での審議を経たうえで、卒業が認定されます。

1) 本学の学生が卒業時に備える能力

本学の教育課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や専門的技術を活かしたキャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の枠を超えた幅広い教養、表現力、ものの見方、共感性を身につけています。

2) 卒業に値する学生を認定する手段

文学部では卒業論文（英文学科は英文）を担当

教員が審査し、優秀な論文を公表します。

音楽学部では卒業専門実技試験にて審査が行われ、その後、全員が公開の卒業演奏・公演に臨みます。

人間科学部では卒業論文を担当教員が審査し、公開された卒業論文発表会を行います。

キャリアデザインポリシー

神戸女学院大学では「キャリア」を「人が生涯を通じて行う仕事の総体である」(Career is the totality of work in her lifetime)と認識しています。学生は本学での大学生活を通して知識や技術、能力、人間性、主体性を豊かに育みます。卒業後は社会に自立・適応し、生涯多様な女性のライフステージを通じて、置かれた場で、職業人、家庭人、社会人として、社会を創造していきます。学生の豊かなキャリアを実現するため、本学では次の方針に基づき、教職員が協力して各自の進路をデザインする力を養います。

1. 本学の「ミッションステートメント」にあるように、キリストの教えに基づく伝統の中で豊かな人間性を育みます。
2. 本学の「アカデミックポリシー」による学修により、基礎学力と幅広い教養、確かな専門知識と技術、応用力、国際的視野と異文化理解を育みます。
3. 学科の専門教育科目の体系的な履修により、学科の特性を生かした就業分野で社会的に自立できる職業人を育成します。
4. 学科横断的に設けた教育プログラムの履修により、専門教育科目で身につけた知識や技術を創造的に活用する能力や広い視野を涵養します。
5. 求人や企業等に関する情報提供に加えて、個別面談・指導や学年に応じた各種特別講座を充実させ、実践的に支援します。

● 大学院

ミッションステートメント

神戸女学院大学大学院は、学ぶ者と働く者が共に学院標語「愛神愛隣」に基づく基督教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長を目指します。

アドミッション・ポリシー（入学者選考の基本方針）

本学大学院のミッションステートメントとアカデミック・ポリシーをよく理解し、それぞれの研究科・専攻の教育課程を履修するために必要な基礎学力を備えた人を受け入れます。本学における学びを通して建学の理念を体得し、与えられた知恵と力を社会に生かして、隣人に仕えることを志す人を迎えます。

アカデミック・ポリシー（カリキュラムの編成方針）

キリスト教主義の歴史ある女性高等教育機関としての伝統に基づき、現代の女性のライフステージの多様さを理解し、専門的な知識と応用力を身につけた共感性の高い人格を養成します。そのために、文学研究科（修士課程、博士前期・後期課程）、人間科学研究科（博士前期・後期課程）、音楽研究科（修士課程）を置き、次のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1) 専門的学術理論・技術の教授と研究、
- 2) 論理的思考力の養成、
- 3) 専門知識と技術の社会的還元、
- 4) 文化・思想・科学の進歩に寄与する独創性の育成

ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与に関する方針）

神戸女学院大学大学院では次のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した大学院生に対して所定の委員会での審議を経たうえで、修了が認定されます。

1) 本学の大学院生が修了時に備える能力

本学大学院の博士前期課程・修士課程を修了した者は体系的に身につけた専門的なものの見方や表現力、専門的技術を活かした教育・研究キャリアに従事する能力を身につけています。また、専門領域の知識や技術を有効に社会に還元するためのものの見方、共感性の高い人格的教養を身につけています。

本学大学院の博士後期課程を修了した者は専門領域のより深い知識と思考力を身につけ、自立した研究者、指導者としての能力を身につけています。

収めた学生には学外で開催する修了披露演奏会で演奏する機会を与えます。副論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。

2) 修了に値する学生を認定する手段

文学研究科では修士論文または修士課題研究を主査および副査が審査し、研究科委員会で合否を判定します。合格した論文または課題研究は公開の場で報告します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による査読、公開の口頭試問を行います。研究科委員会の審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

人間科学研究科では修士論文を主査および副査が審査し、公開された修士論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、研究科委員会で合否を判定します。博士論文の審査は、研究科委員会で選出された主査および副査による論文審査、公開の論文公聴会と口頭試問を行います。研究科委員会の審議を経たのち、大学院委員会で合否の判定を行います。修士号および博士号を授与された論文は製本されて本学図書館に保管され一般の閲覧に供します。合格した博士論文は3ヶ月以内に論文要旨、審査結果の要旨を学内学術刊行物に公表します。

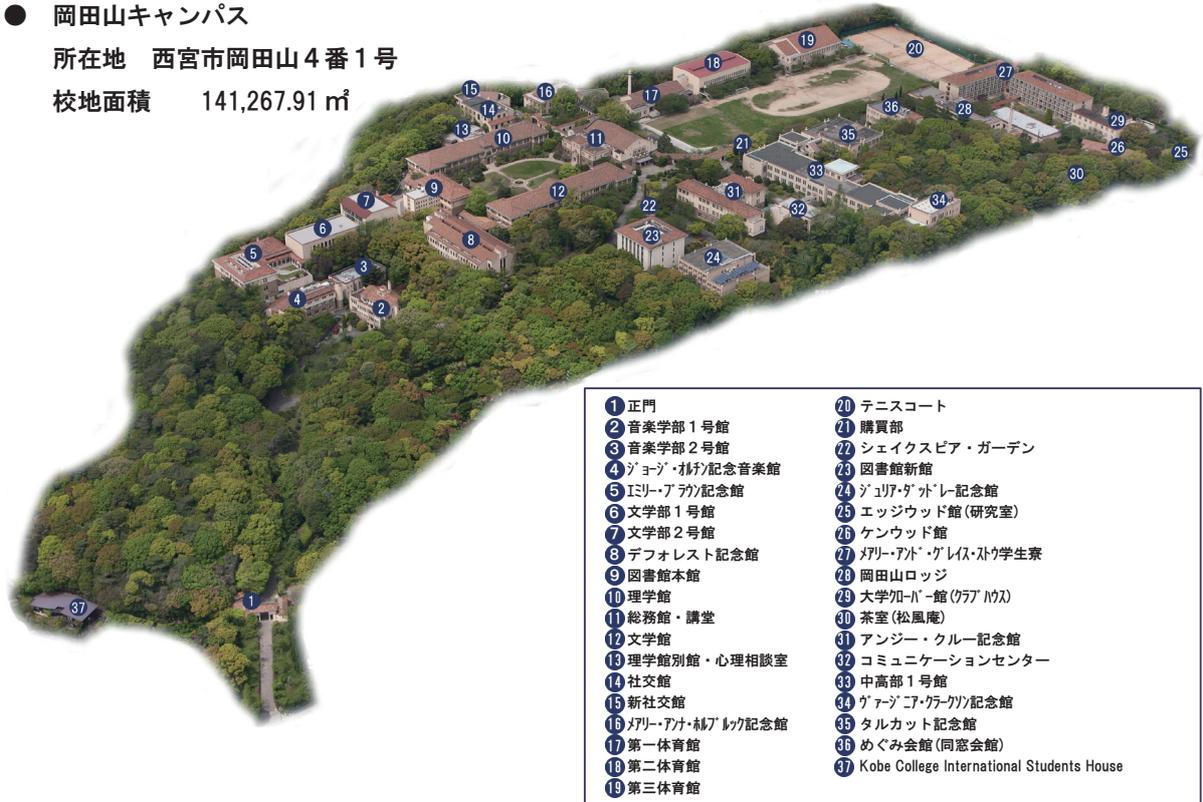
音楽研究科では修了作品または修了演奏を専門教員全員と外部から招聘した審査員により公開のもとで審査し、副論文は主査と副査が審査します。合否は研究科委員会で判定します。優秀な成績を

4 校地・校舎

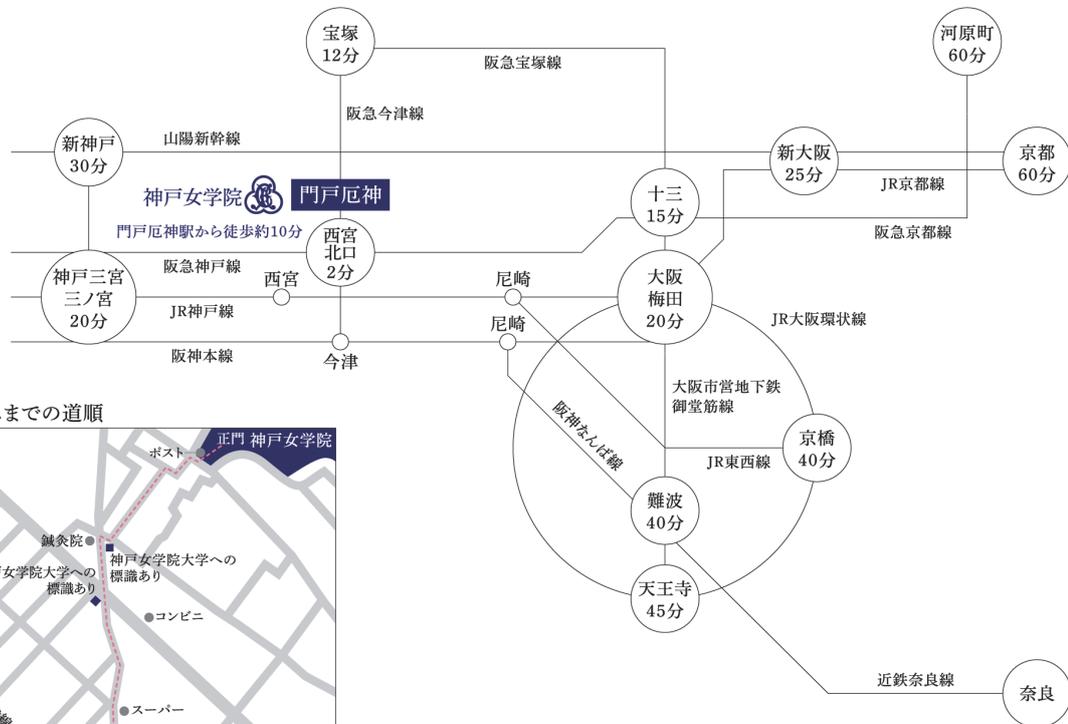
● 岡田山キャンパス

所在地 西宮市岡田山4番1号

校地面積 141,267.91㎡



■ 最寄り駅「門戸厄神」駅までの所要時間(目安)



■ キャンパスまでの道順



● Kobe College International Students House

所在地 西宮市岡田山1-3-1

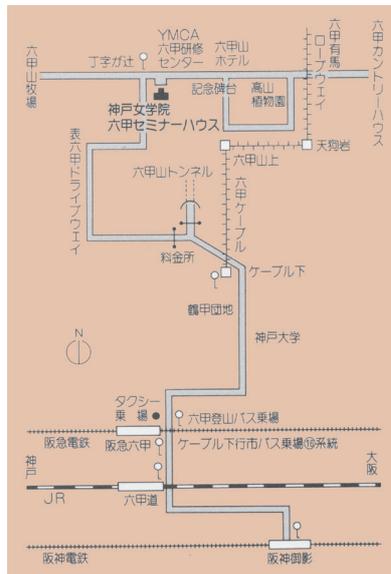
敷地面積 696.10㎡



● 六甲セミナーハウス

所在地 神戸市灘区六甲山町1043-8

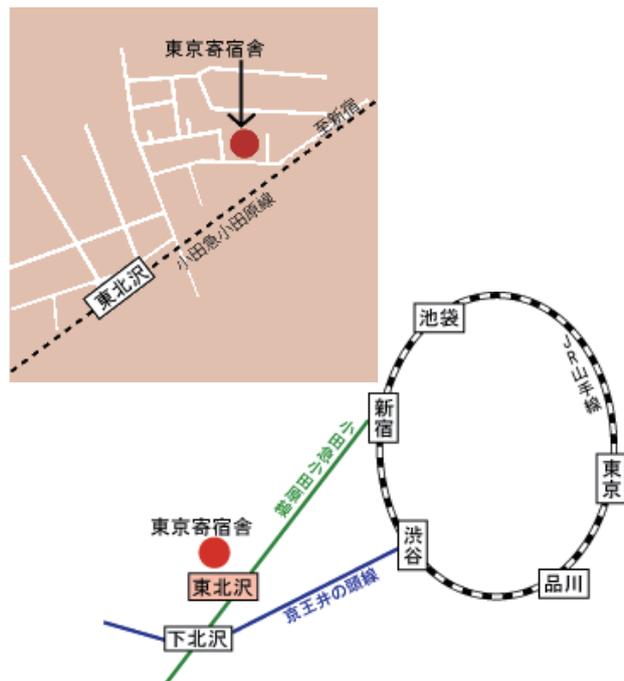
敷地面積 1,501.65㎡



● 東京寄宿舍クローバーハウス

所在地 東京都渋谷区大山町8-7

敷地面積 367.46㎡



5 入学定員・収容定員・在籍者数

2014年5月1日現在

●神戸女学院大学		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学部					
英文学科		140	174	560	684
総合文化学科		200	218	780	904
	計	340	392	1,340	1,588
音楽学部					
音楽学科		46	37	187	183
	(編入)	1	0		
人間科学部					
心理・行動科学科		90	101	360	411
環境・バイオサイエンス学科		80	100	320	385
	計	170	201	680	796
	大学 計	556	630	2,207	2,567
	(編入)	1	0		

●神戸女学院大学大学院		入学定員	入学者数	収容定員	在籍学生数
文学研究科					
英文学専攻	博士前期課程	13	5	26	10
	博士後期課程	2	1	6	3
比較文化学専攻	博士前期課程	5	5	10	13
	博士後期課程	2	0	6	1
	計	22	11	48	27
人間科学研究科					
人間科学専攻	博士前期課程	10	11	20	22
	博士後期課程	2	3	6	5
	計	12	14	26	27
音楽研究科					
音楽芸術表現専攻	修士課程	7	9	14	13
	大学院 計	41	34	88	67

●神戸女学院中高部		入学定員	入学者数	収容定員	在籍生徒数
中学部		135	141	405	423
高等学部	全日制課程 普通科	—	—	405	418 ※1
	中高部 計	135	141	810	841

※1 海外からの留学生（期間1年）を含む

● 在籍者数推移

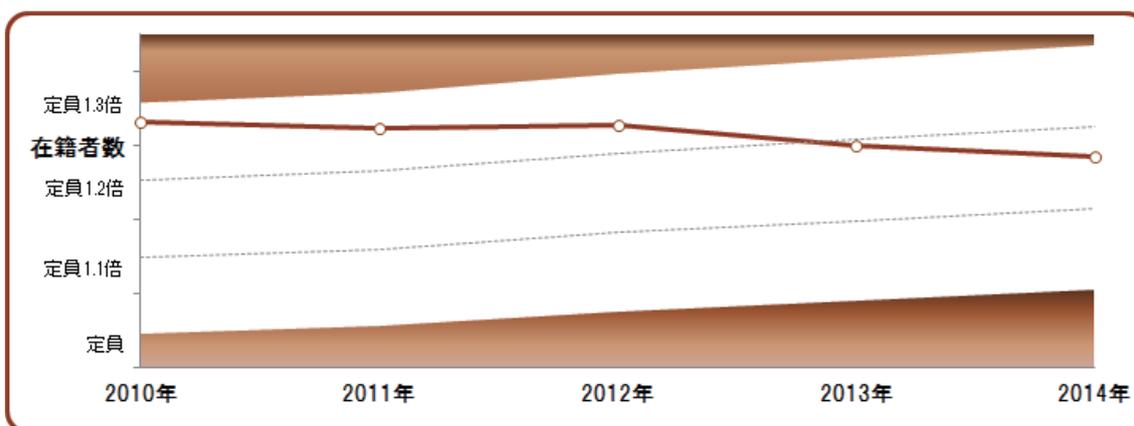
神戸女学院大学

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
文学部	1,679	1,656	1,653	1,606	1,588
音楽学部	211	212	205	206	183
人間科学部	772	775	795	784	796
計(A)	2,662	2,643	2,653	2,596	2,567
定員(B)	2,088	2,108	2,148	2,178	2,207
(A) / (B)	1.27	1.25	1.24	1.19	1.16

2011年度より心理・行動科学科の入学定員を80名から90名に増員

2012年度より総合文化学科の入学定員を180名から200名に増員

2012年度より音楽学科の一年次入学定員を47名から46名とし、編入学定員を1名に変更



神戸女学院大学大学院・修士・博士前期課程

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
文学研究科	33	42	35	26	23
人間科学研究科	21	18	19	18	22
音楽研究科	14	14	14	11	13
計	68	74	68	55	58

神戸女学院大学大学院 博士後期課程

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
文学研究科	10	5	3	3	4
人間科学研究科	1	1	2	2	5
計	11	6	5	5	9

神戸女学院中高部

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
中学部	436	423	420	416	423
高等学部	441	438	429	429	418
計	877	861	849	845	841

6 役員・評議員に関すること

2014年5月1日現在

理事		定員	現員	
第1号理事	院長(理事長)	1	1	森孝一
第2号理事	学長	1	1	飯謙
第3号理事	中高部長	1	1	林真理子
第4号理事	めぐみ会※1推薦会員で 理事会選任	3	3	伊藤良子 小澤妙子 上紀子
第5号理事	評議員会選任	2	2	石割初子 西澤他喜衛
第6号理事	コーポレーション※2推薦で 理事会選任	3	3	原田恵子 伊藤栄子 斉藤言子
第7号理事	理事会選任学識経験者	4	4	家近正直 柴谷享一郎 安場耕一郎 吉富正夫
総数		15	15	
監事		2	2	野木芳子 澤田磐雄

評議員		定員	現員	
第1号評議員	理事会選任学識経験者	11	11	橋本恵里子 石田忠範 磯部卓三 伊藤良子 松本眞千子 西澤他喜衛 佐藤容子 竹中禮子 辻毅一郎 植木龍夫 吉富正夫
第2号評議員	めぐみ会推薦会員で 評議員会選任	8	8	石割初子 松本美耶子 中川玲子 大橋悦子 尾崎日佐子 杉本雅代 転法輪真理 梅田玲子
第3号評議員	理事会推薦教職員で 評議員会選任	8	8	小林哲郎 斉藤言子 高橋雅人 北田京子 荻欣也 大門光歩 井出敦子 住野秀樹
第4号評議員	コーポレーション推薦で 評議員会選任	4	4	馬場美奈子 伊吹寛子 Martha Mensendiek 杉浦剛
総数		31	31	

※1めぐみ会…

正式名称「公益社団法人神戸女学院めぐみ会」は、キリストの教えに基づく神戸女学院の立学の精神を重んじて、その教育の振興を助成し、会員の教養を高め相互の親睦を図るとともに、社会に貢献することを目的とした組織です。めぐみ会の主たる会員は、神戸女学院が設置した学校の卒業生です。(在校生は準会員)

※2コーポレーション…

正式名称「Kobe College Corporation」は、神戸女学院の維持管理と募金のためにアメリカ合衆国イリノイ州シカゴに設立された財団であり、1920年の設立時より現在に至るまで本学院のための募金活動を続け、現在では主に、中高部英語教員や大学客員教員の派遣、本学学生への海外インターンシップの機会提供、奨学金などの支援を行っています。

7 教職員数等に関すること

● 在籍教職員数

2014年5月1日現在

	教授	准教授	専任講師	助教	任期制教員	特任教授	特任助教	客員教員	客員研究員	特別客員	計
英文学科	10	4	3	0	0	0	0	0	0	0	17
総合文化学科	12	9	3	0	0	1	0	0	1	0	26
音楽学科	7	3	0	0	2	0	0	2	0	0	14
心理・行動科学科	5	4	2	0	0	0	0	0	0	0	11
環境・バイオサイエンス学科	9	2	0	0	0	0	1	1	0	0	13
一般(体育)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
共通英語教育センター	1	1	0	0	3	0	0	0	0	0	5
計	46	23	8	0	5	1	1	3	1	0	88

	教諭
高等学部	21
中学部	21
計	42

	専任事務職員	専任労務職員	契約職員	計
法人	16	0	1	17
大学	49	0	2	51
中高部	4	0	0	4
計	69	0	3	72

	嘱託事務職員	嘱託教学職員	計
週5日	0	0	0
週4日	15	9	24
週3日	1	5	6
週2日	0	4	4
週1日	1	0	1
計	17	18	35

● 在籍教職員数推移

		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
大学	専任教員	87	86	83	84	88
	非常勤講師	333	340	338	338	327
	大学計	420	426	421	422	415
中高	専任教員	41	39	41	41	42
	非常勤講師	23	24	23	22	20
	中高計	64	63	64	63	62
計		484	489	485	485	477

学院	専任職員※	嘱託職員	計
	70	36	106
	72	36	108
	72	36	108
	71	41	112
	72	35	107

※契約職員含む

8 法人の沿革

1873年(明治6年) 米国で教育者としての経験を持っていたタルカット、ダッドレー両宣教師は、3月に来日し、10月、神戸花隈村に私塾を開く。

1875年(明治8年) 創立 山本通に女子寄宿学校を開校。「女学校」と呼ばれる。英語名はGirls' School。初代校長はタルカット、舎監はダッドレーで、当初の学生数は26名(寄宿生3名、通学生23名)。

1879年(明治12年) 校名を「英和女学校」とし、5年制の課程を定めカリキュラムを整備。

1885年(明治18年) 高等科(1年)、および校章を定める。三つ葉のクローバーをかたどった校章は、身体、精神、靈魂の一致調和した完全な人格の育成をめざす学院の理想を表現。

1891年(明治24年) 本格的な女子高等教育を開始、3年制の高等科を設ける。この頃「神戸英和女学校」と名のる。

1894年(明治27年) 「神戸女学院(Kobe College)」と改称。名実ともにCollege(女子高等教育機関)となる。

1906年(明治39年) 教育課程を改正。また、新たに音楽科を置く。

1909年(明治42年) 専門学校令により「専門部(4年制)」(当時の女子高等教育の最高水準)設置認可。

1919年(大正8年) 専門部を「大学部」と改める。予科1年・本科3年を置く。

1933年(昭和8年) 西宮市岡田山に移転。伝道者・建築家ヴォーリズによってスパニッシュ・ミッション様式の校舎が完成。現在の文学館、理学館、図書館本館、音楽学部1号館、講堂・ソールチャペルを含む総務館などは当初の建物。

1948年(昭和23年) 学制改革により4年制の新制女子大学—「神戸女学院大学」が認可され、文学部(英文学科、社会学科、家政学科)を設置。

1949年(昭和24年) 新制の音楽学科を設置。1952年には音楽学部の認可を受ける。

1965年(昭和40年) 大学院文学研究科(修士課程) 英文学、社会学専攻を設置。

1967年(昭和42年) 家政学科が独立して家政学部となる。

1975年(昭和50年) 創立100周年を迎える。

1976年(昭和51年) 文学部社会学科を改組して総

合文化学科とする。

1980年(昭和55年) 大学院の整備・充実が進む。大学院文学研究科(修士課程)に日本文学専攻を設置。

1989年(平成元年) 大学院文学研究科英文学専攻に博士後期課程を設置。

1990年(平成2年) 音楽専攻科を設置。

1993年(平成5年) 家政学部を改組して、人間科学部人間科学科を設置(家政学部は募集停止)。

1997年(平成9年) 大学院人間科学研究科(修士課程)人間科学専攻を設置。

1999年(平成11年) 大学院人間科学研究科人間科学専攻に博士後期課程を設置。

2000年(平成12年) 創立125周年を迎える。大学院に音楽研究科(修士課程)音楽芸術表現専攻を設置。また大学院文学研究科日本文学専攻を比較文化専攻に改称。

2001年(平成13年) 東京女子大学と相互に学生交流を行う特別聴講制度を開始。

2002年(平成14年) 大学院文学研究科比較文化専攻に博士後期課程を設置。

2004年(平成16年) 大学院文学研究科(博士前期課程)英文学専攻に通訳コースを設置。

2005年(平成17年) 人間科学部に心理・行動科学科と環境・バイオサイエンス学科を設置(人間科学科は募集停止)。

2006年(平成18年) 音楽学部音楽学科に舞踊専攻を設置。

2007年(平成19年) 音楽学部音楽学科作曲専攻をミュージック・クリエイション専攻に改組。

2013年(平成25年) 大学院文学研究科社会学専攻を廃止。

「重要文化財 神戸女学院」ヴォーリズ建築の一般公開について

2014年9月に岡田山キャンパスの12棟の建物が国の重要文化財に指定されました。名称は「重要文化財 神戸女学院」です。この12棟はすべてウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計による建物です。この指定により、一般の見学希望者の増加が見込まれたため、2014年度中に11日間の一般公開日を設け、各日2回の見学ツアーを実施し、延べ473人の参加がありました。実施日程及び見学者数は次のとおりです。

公開日	9/21	9/23	10/19	11/9	12/7	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/30
見学者数(人)	38	47	45	44	49	41	46	45	31	35	52

特に3/24から3/30までの6日間の見学ツアーでは、学院の歴史やヴォーリズ建築について、院長室職員から講習を受けた学生の“ツアー・マイスター”が案内を担当しました。見学者からは、神戸女学院とヴォーリズ建築、そしてツアー・マイスターについて大変高い評価をいただけた一般公開となりました。



神戸女学院における寄付募集事業について

神戸女学院では、「神戸女学院教育振興会」（1998年4月発足）を組織して、寄付募集を行っています。教育振興会は、本学院の教育環境を充実、発展させるための財政基盤を強固なものにすることを目的とし、在校生保護者、同窓生、教職員、旧教職員、役員、法人等を会員として恒久的な活動を行っています。

教育振興会へのご寄付は、次の2つの事業に活用しています。

- ・岡田山キャンパス100周年に向けて2008年5月に策定された「神戸女学院岡田山キャンパス一創建建築保存再生計画」に沿って改修を実施するための費用の一部
- ・学生生徒の奨学基金の拡充

2014年度は1,067件(2013年度813件)、4,562万9,608円(2013年度3,881万4,108円)のご寄付をいただき、発足以来の累計が15,777件、10億6,607万4,432円となりました。多くの皆様に尊いご芳志をお届け頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。

寄付募集については、毎年会員各位に寄付の依頼状と払込用紙を郵送しています。また、2013年3月から学校法人神戸女学院と神戸女学院大学のホームページからクレジットカード決済による寄付金のお手続きができるようになりました。引き続き本学院に対するご支援をお願い申し上げます。

神戸女学院教育振興会ホームページ <http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>

Ⅱ. 事業の概要

1 大学総括

2014年度は4月4日の入学式に学部630名、大学院博士前期（および修士）課程30名、同後期課程4名の新入生を迎えて始まり、2015年3月19日、592名に学士号、23名に修士号、1名に博士号を授与する卒業式をもって閉じられました。2012年度に立てた中期目標「神戸女学院大学—これからの道標（2012～2022）」を着実に実施に移す、安定感ある教育活動をなした一巡りの年であったと評せます。

教学面で2014年度の大きなニュースは、新英語カリキュラムのスタートです。数年にわたって準備し、2013年4月に発足した共通英語教育研究センター（英語センター）が本格稼働を始めました。1年生の英語授業時間を週4日とし、これに伴い卒業必要単位数も4単位増加の128単位となりました。英語センターはすべての共通英語科目で教育目標と授業内容、学生評価の方針を定め、授業を実施しています。教材もオリジナルテキスト（A Portrait of Kobe College）、ウェブからのスマホ教材や音声ファイル利用、授業外の学修を鮮明にする『英語手帳』の発行等、新たな開発があります。また従来はTOEICのみであった表彰対象に英検、IELTS、TOEFL、国連英検を加え、学生のモチベーションを高めるよう努めています。他にも英語センターでは、これまでのEnglish Zoneに加えて、英語の自主的勉強会English Cafè、TOEIC、IELTS対策講座等を専任教員のボランティアで開催。その結果TOEICで、1年次の間に44%の学生が50点以上、そのうち20%以上の学生が100点以上スコアを伸ばしました。200点以上のスコアアップを果たした学生も2%超に上ります。もちろん本学が目指す、他者との間に深い意味での相互理解を生み出す共感性のある英語力がこのスコアだけで測れるとはもとより考えておりませんが、一つの指標として提示いたしたく存じます。

英語教育の活性化と併走させ、国際化プログラムも進展させました。これは上記の「道標」に記した「豊かな…国際感覚を育む」と関わります。2014年度は新たにインドのセントジョセフ大学、英国のケンブリッジ大学ヒューズホール、米国のミルズ大学

と交流協定を締結しました。学生相互の留学や訪問も積極的に行われています。受け入れについては、長中期で7名、グループによる短期訪問は4カ国6大学より59名。短期訪問は、3日間から18日間で、学内での講義や学外の現場学修等を行います。本学学生が、学内外のプログラムに積極的に参加し、貴重な交流機会をよく活かしました。また本学からは、長期（1年）・中期（1学期）で36名の学生が海外の提携大学に留学しました。短期の語学研修は100名が海外の大学等に出かけ、その地で本学における学修を深めました。この中にはインターンシップを含むプログラムもあります。学生が十分な語学力と応用力、汎用力を身につけることができるよう、選択肢の拡幅を願っております。



学生の自発的学修促進支援の働きも各部署で行われました。図書館について紹介します。ラーニングコモンズ内にライティング・サポート部門を立ち上げました。これは大学院生による論文、レポート、プレゼンテーション等に関わる指導で、学部生は予約なしにアドバイスを受けることができます。これを端緒として、ピアサポートへと広がることが望まれます。また英語センターとの共同で多読用教材として新たに1,600冊（計4,200冊）を購入し、自主的学修環境の整備を進めました。

教室では、2013年度改修に着手した文学部1号館21番教室の使用が開始されました。座席数は従来の400超から400弱へと減少しましたが、学生は余裕をもって受講できるようになりました。この改修の一環でエレベーターが設置され、バリアフリー化が促進されたことも報告いたします。

2 中高部総括

2014年度は中学部 新1年生141名、高等学部 新1年生134名を迎え、生徒数 中学部423名、高等学部417名、タイからの留学生1名でスタートしました。

2014年度は校舎設備の拡充の一年でした。前年度から新築工事が進められていた「ヴァージニア・クラークソン記念館」が完成し、7月14日に献堂式を挙行了しました。1階には社会科教室と社会科準備室、小教室、2階には英語科のコンピューター完備LL教室2室と録音室2室・英語科準備室、3階には壁面に鏡を備え、視聴覚機器を完備した多目的ホール「トリニティホール」が設置されました。社会科教室では、視覚教材、教材提示装置などを駆使した授業展開が可能になりました。小教室は、少人数で展開される選択授業や補習、集会などで頻りに利用されています。英語授業では、新しく導入されたCALL教室支援ソフトの導入により、シャドーイングやリピーティングなどの言語活動、動画やSKYPEを利用した授業などの授業が効率よく実施できるようになりました。精度の高い録音が可能になったので、暗唱・スピーチコンテストの準備もしやすくなりました。トリニティホールでは鏡で体の動きを確認しながら練習できるため、ステージ系のクラブ活動・体育祭の学年パフォーマンスなどの練習にも利用されていますし、最大150人収容できるので、学年集会・PTAの集会・祈祷会・各種説明会など、多岐にわたる集会でも利用されています。

また、昨年11月から改修工事が始まったコミュニケーションセンターが2月末に完成しました。外壁や扉・窓の体裁が新しくなり、周りの建物と調和した美しい外観になりました。1階のホールは、明るく改修され、150人収容の小ステージ付き多目的ホール「コムホール」として再スタートしました。授業や集会・文化祭関連のイベントなどで大いに活用できると期待が高まっています。2階は、高等学部演劇研究部・中高のギター部・中高の軽音楽部など、音楽系や演劇系のクラブのための部室5室と練習室4室へと改装されました。防音工事がされているので、今までのように屋外への音漏れを気にすることなくクラブ活動ができるようになりました。

中高部にとって、2014年度事業の2番目の眼目は、広報のより一層の充実です。ここ数年、近隣私学の共学化・特別コース設置・大学受験指導の宣伝強化な

どの動きが強まり、中学入試の競争が激化し、本校でも受験者数減少が問題となってきました。本校の魅力を受験生や保護者により詳しくお伝えできるよう、教職員一丸となって広報強化を進めてきました。今年度の教職員研修会では、各教科が、授業内容、その中でも特に神戸女学院中高部ならではの授業の特色や、今後教科として取り組んでいきたい方針などをまとめて発表し、全教員で共有しました。各教科が、神戸女学院の自然や「リベラルアーツ教育」の伝統を大切にしながら、独創的で質の高い授業を提供していることが確認されました。この教科プレゼンテーションを基に、11月1日開催の「キャンパス見学会」をさらに充実したものにするべく、体育室で「教科プレゼン」の内容をポスター展示したり、「教科冊子」を作成して見学者に配布したりしました。体験授業・卒業生の話・教科からの説明・生徒の英語スピーチ・各種クラブの練習公開等が好評で、雨天にも関わらず、1,100人以上の方が来校されました。また、学校説明会や新聞・雑誌の取材の機会に、教育理念や建学の精神の説明だけではなく、重文指定を受けた校舎の紹介、生徒の多岐にわたる活発な活動、理科の実験等の教育内容を紹介しました。受験生が微増したことや、今まで以上に広いエリアから志願者を獲得したことに力を得、今後も中高部教育の魅力をより一層アピールしていきます。

国際交流や生徒の国際的な活動でも充実した1年でした。夏休みには20名の生徒と2名の引率教員がオーストラリアの姉妹校 Methodist Ladies' College を2週間訪問しましたし、4月には英語ディベート優勝メンバーがキャロライン・ケネディ駐日アメリカ大使と面談の機会を与えていただきました。数学オリンピックや哲学オリンピックの国内選考会では高等学部生徒が日本代表に選出されました。2月には西アフリカのトーゴ共和国臨時代理大使が礼拝や英語授業で講演してくださいましたし、スピーチコンテスト等各種コンテストの入賞の副賞として海外に派遣された生徒も数名いました。キャリアガイダンスや礼拝の講師として、国際的な活躍をされている卒業生のお話を聞く機会が増え、刺激を受ける生徒も増えています。中高部の教育の成果が、生徒たちの国際的な活動という形で具現されていることを確信しつつ、来年度も、国際交流や生徒の活動のさらなる充実を図っていきます。

3 教育・研究

共通英語教育新カリキュラムのスタート

2014年度からの共通英語教育新カリキュラムでは以下の点が大きく変わりました。すべての授業科目で教育目標及び授業内容、使用する教材、学生評価の方針を共通英語教育研究センターで定め、同じ方針のもとで授業を行うようにしました。これにより、学生はレベル別に定められた同じ内容のスキルを学修することになります。これを実施するために、学期開始前に非常勤講師への説明会を行い、学期末には非常勤講師からのフィードバックを受ける仕組みを整えました。

次に、1年生の英語授業時間を週4日にし、卒業必要単位数を4単位増やして128単位としました。前期の授業“Reading and Writing English”では本学のオリジナルテキスト“A Portrait of Kobe College”を使い、週2回の授業を行いました。多読にも取り組み、多読教材を新たに約1,600冊購入し、既存のもの合わせて約4,200冊が図書館で利用できるようになりました。native speakerによるcommunication系の授業でも共通のオリジナル教材を作成しました。また、前期にはweb教材“EnglishCentral”を採用し、学生は教室以外でもインターネットを介して学修でき、学生の学修記録は担当教員がネット上で確認できるようにしました。後期の授業で使う教材も共通英語教育研究センターで学生の専門分野、英語レベルに応じて選定しました。

授業以外の学修サポートとして「英語手帳」を発行し、すべての新入生に持たせました。自分の到達目標や学修内容を記録させることで英語を学ぶ意欲を喚起するようにしました。また、表彰制度を拡張し、英検、IELTS、TOEFL、国連英検なども対象にしました。English Zoneに加えて、英語の自主的勉強会English Café、TOEICやIELTS対策講座などを専任教員によるボランティアで開催しました。

入学時にIP-TOEIC750点相当以上の力を持つ学生だけを対象としたEnglish Honors Programを開始しましたが初年度は7名の学生が受講し、少人数で密度の濃い授業を受けました。本プログラムは高い英語力をもつ高校生を惹きつけるものと期待されま

2014年度 音楽学部定期演奏会

2014年度の音楽学部定期演奏会は、11月26日(水)午後6時30分より兵庫県立芸術文化センターKOBELCO大ホールに於いて行われました。今回は、4年ぶりのベートーヴェンの交響曲第9番をメインに、モーツァルトのフィガロの結婚序曲、デュカスの交響詩「魔法使いの弟子」が演奏されました。



いつも定期演奏会では、音楽学部教職員と学生が一丸となって時間をかけて準備に入り、当日も全員でステージの成功に向かって、全力で運営しています。今回は、初の試みとして、辻井淳准教授の率いる小編成のオーケストラによるモーツァルトの序曲で島崎徹教授振り付けによる舞踊専攻3年生8名がステージで踊るというコラボレーションが、時間は短かったものの好評で、オーケストラバックの大ホールで踊れた学生にとっても、良い経験となりました。デュカスは、ディズニーのファンタジアでもおなじみの名曲を多彩な演奏で楽しませました。また、メインの「第9」は、ソリストに、斉藤言子教授、山田愛子非常勤講師、松本薫平准教授、萩原寛明非常勤講師、中村健教授の指揮、音楽学部オーケストラ、合唱団で演奏されましたが、今回男声合唱は、一般からボランティアを募り集まって下さった100名程のメンバーに、院長、学長、その他教職員の応援もあり、高らかに歌い上げられた歓喜の歌は、937名の入場者から絶賛の拍手をいただきました。

ステージで演奏したメンバーだけでなく、素晴らしい曲目解説をお書き下さった孟眞理先生、そして演奏会を支えて下さった学内、学外のすべての皆様にこの場をお借りして心からお礼申し上げます。

第9回音楽学部舞踊専攻公演

去る3月5日、6日に渡り音楽学部舞踊専攻の第9回定期公演を兵庫県立芸術文化センターにて行いました。2日間に渡り1,189人を動員するに至ったこの度の公演は、二部構成で、まずI部の1作品目は1年生と2年生によるHere we are!で幕を開けました。1年生の中には、リハーサルを始めた当初なかなか振付が体に入らず苦勞した学年もいましたが、本番当日は力強く踊る事ができました。I部の2作品目はZero bodyです。この作品は昨年の12月の卒業公演の際に4年生のために制作されエミリーブラウン館にて発表されました。この度の公演で初めて劇場で観ることによって、照明の影響が増し空間の広がりを感じられた事で作品がレベルアップされたと感じました。休憩を挟みII部の1作品目は2年生が、客員教授のモンタギュー先生振付によるLibrarsiを踊りました。とても難しい音楽なため、群舞を揃えるのにかなり苦勞しましたが、この学年が持つ粘り強さとパワーでそれを克服し作品を仕上げました。II部の2作品目は3年生によるBlue snowです。体力的にかなり大変な作品でしたが、半年間練習を積み重ねた甲斐あって、最後まで緊張感のある踊りを披露することができました。そして最後の演目は、4年生のために創られた新作のFor Jamesです。今年の4年生に相応しく難度の高い振付でしたが、2日間に渡り期待通りに素晴らしい、観客を魅了する舞台を実現してくれたと思います。ご来場頂きました沢山の皆様から、舞踊専攻のレベルの高さと、公演の完成度の高さに驚いたという言葉をもらい、無事に2日間の公演を終えました。



ESDプログラムの取組みについて

文部科学省からの助成を受けて、科学技術振興機構（JST）の戦略的環境リーダー育成拠点形成の1つとして、2009年度より実施してきたESDプログラム「地域からESDを推進する女性環境リーダー」も、2013年度で助成期間が終了しました。2014年度は、前年度に受け入れた留学生5名が修了するまでの約半年間プログラムを継続し、またこの取組みの総括として事後評価を受ける準備などを行いました。

前年9月に、中国、インドネシア、フィリピン、ベトナムの4か国から来日した4期生5名は、4月以降、本学教員を中心にした日本人講師による英語授業や、アジア各国の専門家による双方向の遠隔授業、また西宮市域を中心に活動するNPOでのインターンシップなど、予定のプログラムをすべて終え、日本人学生3名とともに9月16日に修了式を迎えました。また、7月4日に本学の金曜日公開プログラムの一環として恒例になっている「ESD留学生研究発表会」、9月4日に「ESD留学生公開成果発表会」を行いました。

これで、5年間にわたって実施した本プログラムの修了生は、アジア6か国から24名、日本人6名となりました。現在は、それぞれの母国あるいは異国で、行政機関や大学をはじめとする教育機関の教職員、環境関連の企業、国連NGO/NPOなど、本プログラムで学んだ知識や経験を活かせるような分野で活躍を始めています。



また、助成の終了にともない、プログラムの事後評価を受けるため、JSTへの成果報告書の提出、JST本部で行われたヒアリングでの発表などを行いました。その結果、ESDが趣旨とする「持続可能な発展」に関する地域や市民の理解促進を目的として、全学的な協力体制の下に、自治体・NPO・企業などとの連

携を有効に生かしたプログラムであることが高く評価されました。このプログラムで培った教育体制をもとに、いかにして継続・発展させていくかが、今後の課題となっています。

『語り継ぐ女性学一次代を担う女性たちへのメッセージ』の出版について

神戸女学院大学女性学インスティテュートは、2015年2月に御茶の水書房から『語り継ぐ女性学 一次代を担う女性たちへのメッセージ』（神戸女学院大学女性学インスティテュート編）を出版しました。女性学インスティテュートは、「女性学（実践編）」（1年生対象）、「女性学（理論編）」（2年生対象）を企画・運営していますが、2013年に、二つの女性学の授業で使うことのできる教科書を作ることになり、当時の担当者7名が授業の積み重ねを基礎に執筆することが決まりました。



本書は18章と10のコラムによって構成されています。第1章から第3章は、ジェンダーとは何なのか、ジェンダーとセックスの関係、セクシュアリティについて考察しています。

つづく第4章から第6章は、女性のからだについて知ることをテーマにしています。多くの学生が「もっと痩せたい」と願っています。毎月の生理をわずらわしいと感じてもあります。また、妊娠や性感染症について、もっと正確な知識が欲しいと思っています。そんな彼女たちの声に応える内容となっています。

第7章と第8章では、関係性をテーマにしています。家族関係、とりわけ母親との関係について悩みをもつ学生は少なくありません。彼女たちがなんとなく抱く家族のイメージや家族の中での母親の役割などについて、歴史を見ることで、家族のありようは時代とともに変化していること、家族の問題に女性学が大いに関係していることを伝えています。

最後に、本書のなかで大きなスペースをとって

るのは、女性に対する暴力についてです（第9章から第18章）。「女性だからといって差別された経験はありません」と答えてくれる彼女たちにとって、セクハラやストーカー、デートDVなどの女性に対する暴力は身近な問題だからです。

教科書づくりから出発した本書ですが、女性学に関心のある女子学生に広く読まれることを願っています。

神戸女学院大学第5回絵本翻訳コンクール

高校生に英語を学ぶ楽しさと、異文化を知る喜びを味わってもらいたいとの意図でスタートした絵本翻訳コンクールも第5回を数え、全国266校から1,689作品（昨年は234校1,191作品）もの応募をいただけるまでになりました。

今年度の課題図書は、“Catch That Crocodile!” インドの街中に突然現れたワニと、周りの人々をコミカルに描いたお話です。原書のリズム感を幼い子どもたちにも伝わるような日本語で楽しく表現できるかが評価のポイントとなりました。

審査員長の松岡享子氏（本学名誉学位・教育文化博士、公益財団法人東京子ども図書館理事長）と田辺希久子文学部英文学教授、豊倉省子非常勤講師による審査では、どの作品にも様々な工夫や努力の跡がみられ、選択に迷うほどの出来栄の中、優秀賞に県立芦屋国際中等教育学校の3名と洗足学園高校（神奈川県）の2名、佳作に北海道札幌旭丘高校の3名および都立小山台高校、神戸女学院高等学部各チーム・個人を受賞者として選出しました。

10月25日（土）、本学KCCルームにて表彰式をおこない、優秀賞受賞の2組には、翻訳した作品を製本した「世界に一冊だけの私の絵本」を授与し、朗読していただきました。その後の懇親会では、受



賞者がお互いの作品の内容について語り合うなど、終始和やかな雰囲気が見られました。

このコンクールを通じ、本学と高校が自然な形で交流を持ち続けることができ、「神戸女学院大学の英語教育」の認知度の向上を図るために有効な施策であると判断しており、長く継続する企画に育ててゆきたいと考えています。各高校の先生方をはじめ、学内外のお支えくださる方々に心からの感謝を申し上げます。

松岡享子氏に名誉学位記を授与

公益財団法人東京子ども図書館理事長で、絵本作家・絵本翻訳家の松岡享子氏に名誉学位を授与することとなり、2015年3月19日、ソールチャペルにて名誉学位記授与式が執り行われました。

松岡氏は本学文学部英文学科を卒業後、慶応義塾大学文学部および米国ウェスタン・ミシガン大学大学院で図書館学を修め、1974年1月以来、公益財団法人東京子ども図書館理事長を務めておられます。児童文学の翻訳、創作、評論、図書館の児童奉仕活動を続けてこられ、また神戸女学院大学の広報活動にも積極的に協力くださいました。特に、本学が2010年に立ち上げた「絵本翻訳コンクール」では、当初より審査員長をお引き受けくださり、献身的にご尽力くださいました。同コンクールは、5年目を迎えた2014年度には、北海道から沖縄県にいたる266の高校から、1,689作品の応募を受け付けるまでに成長し、本学の大切なプログラムとなっています。

本学は、松岡氏のご業績の質的な高さや豊かさ、また本学を含む幅広い社会貢献を覚え、名誉学位・教育文化博士の称号を授与いたしました。



学内LAN環境の無線化

従来、パソコン等をインターネットに接続するためにはケーブルを端末に接続する必要がありました。しかし現在では、無線LANを利用することによりケーブルを使用せず容易にインターネットに接続できる端末も多くなっています。特に有線LANのインターフェイスを持たないノートパソコンやタブレット端末も普及しており、授業でそのような端末を利用するためにも、無線LAN環境の整備が望まれています。そのような環境のもと、本学でも学内LANの無線化に本格的に着手しました。2014年度はデフォレスト記念館、文学館、理学館で無線LAN環境を整備しました。特に、文学館、理学館の整備においては、文部科学省の私立大学等改革総合支援事業に付随するICT活用推進事業として補助金を取得しました。

無線LANにより、従来の単なるスクール形式の座学にとらわれない学生の自主的な学修（アクティブラーニング）を支援できる教室環境が整備されます。無線LANの整備は校舎ごとに行っており、対象とする校舎の全ての教室をカバーエリアとし、教室内のいかなる場所からも学内LANが利用できるように整備しています。無線化することにより、教室での教員の立ち位置の制約が軽減され、学生の間に入った授業が可能となり、教員と学生とのコミュニケーションがとりやすくなります。

また、理学館・文学館の整備時には、同時に授業で学生が使用するモバイルデバイス（iPad）を32台購入し、授業において学生がネットワークへアクセスできる環境を整備しました。これにより、パソコン教室以外であっても、インターネット上にあるコンテンツが利用可能となります。導入したiPadの利用を促進するために、iPad利用者説明会も3月に実施しました。

今後も、学内LANの無線化を進め、2016年度中にはキャンパス内の全教室で無線LANが利用できるように取り組んでいます。

重要文化財 神戸女学院 指定記念講演会

9月18日（木）、官報号外第207号に、文部科学省告示第131号として、神戸女学院の12棟を国の重要文化財に指定する件が掲載されました。

10月12日（日・創立記念日）の午後、今回の指定に至るまで常に、ご指導ならびにご支援をいただいた、兵庫県教育委員会ならびに西宮市教育委員会のご後援をいただき、「重要文化財神戸女学院指定記念講演会」が開催されました。

飯謙学長・学院チャプレンの司会により始まった記念講演会、森孝一理事長・院長は挨拶の中で、キャンパスの設計、建築、維持、保全をお支えくださったみなさまへの感謝を述べました。またご来賓のみなさまから温かいご祝辞を頂戴いたしました。続いて、3人の講師による講演が行われました。

東京藝術大学大学院教授の長尾充氏は、「神戸女学院 重要文化財へ」という題で、今年3月まで文化庁で、神戸女学院を含む文化財調査に実際に携わってきた方ならではの、文化財指定までのいきさつを語ってくださり、「これからも、これまで通り大切にしてください。」と結ばれました。今春大学に籍を移されたことによりこのご講演が実現したことは、学院にとって本当に幸いなことでした。

大阪芸術大学教授で、ヴォーリズ建築の研究者として名高い山形政昭氏は、「重要文化財指定を受けて思うこと」という題で、初めて神戸女学院の正門を潜ってキャンパスを訪問した時の思い出から説き起こされ、「空の広さが変わっていない」など、建築と環境がともに維持されることで、創建時の女学院スピリットが今も鮮明に表現されているとお話くださいました。

石田忠範建築研究所代表で、元ヴォーリズ建築事務所所長で学院の評議員でもある石田忠範氏は、「神



戸女学院建築のこころとかたち—愛神愛隣—という題で、ヴォーリズの設計理念が、神戸女学院の永久標語「愛神愛隣」に相通じるものであることをお話くださいました。

少し風は強かったものの、好天に恵まれ、およそ650人の方にご来場いただき、また見学会には約300人のご参加がありました。ご案内役はこの日がデビューとなる18名のツアー・マイスターがつとめました。



4 高大連携

文部科学省のすすめている高等学校と大学との接続において、一人ひとりの能力を伸ばすための高大連携施策として、本学においても出張講義（大学教員が高校に出かけ、専門分野別講義を行う）、招聘プログラム（高校生を本学に招き、授業体験、大学生活体験を提供する）、理学館体験プログラム（人間科学部の研究室、理学館の実験室を体験することでバイオサイエンスを実感してもらう）、聴講プ

ログラム等様々な取組を実施しています。なお、本学では2014年12月10日に大阪女学院高等学校、2015年2月20日に和歌山信愛高等学校、2月27日にプール学院高等学校、3月9日に梅花高等学校と、それぞれ高大連携に関する協定を締結いたしました。

●出張講義実施状況

担当学科	件数	担当教員
文学部 英文学科	12	立石浩一、田邊希久子、Yolanda TSUDA、白井由美子、中村昌弘、Nathaniel CARNEY、高村峰生、Susan E. JONES
文学部 総合文化学科	5	難波江和英、高橋雅人、三杉圭子、建石始
音楽学部 音楽学科	3	田中修二、津上智実、Xavier LUCK
人間科学部 心理・行動科学科	6	小林哲郎、吾妻壮、矢野円都、木村昌紀
人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	4	張野宏也、寺嶋正明、高岡素子、横田弘文
計	30	

●招聘プログラム実施状況

	実施日	担当教員	テーマ
大阪国際滝井高等学校	10月20日	音楽学部 音楽学科 中村 健	指揮法概論
兵庫県立西宮高等学校	10月23日	文学部 英文学科 Marcelo FUKUSHIMA	異文化とグローバルスタディーズ
		人間科学部 心理・行動科学科 石谷真一	共感性をめぐって ～学際的探究の素描
		人間科学部 環境・バイオサイエンス学科 張野宏也	身近な川は本当にきれいになっているのでしょうか
大阪信愛女学院高等学校	11月6日	文学部 英文学科 Marcelo FUKUSHIMA	異文化と広告
		人間科学部 心理・行動科学科 小林哲郎	スクールカウンセラーと心のケア
和歌山信愛高等学校	11月14日	文学部 総合文化学科 奥野佐矢子	どうして学ばなければならないの？ - 教育学への招待
大阪女学院高等学校	12月11日	文学部 総合文化学科 高橋雅人	わたしは何を知らないのだろうか - ソクラテス「無知の知」をめぐって
上宮高等学校	3月9日	文学部 英文学科 Nathaniel CARNEY	Does Taylor Swift love Starbucks?

●聴講プログラム実施状況（神戸女学院高等学部対象）

		受講者数	受講科目数	合格者数
2010年度	前期	15	6	3
	後期	1	1	1
2011年度	前期	13	7	10
	後期	12	7	5
2012年度	前期	12	7	10
	後期	10	7	8
2013年度	前期	7	5	3
	後期	4	2	0
2014年度	前期	6	4	2
	後期	2	3	1

●体験プログラム実施状況

	日程	担当教員	講義テーマ	参加者	
環境・バイオサイエンス学科	高校教員対象サイエンス体験	8月5日	遠藤知二 イヌビワと共生コバチの生物学	10名	
	サイエンス体験	8月4日	高岡素子 果物のプロテアーゼによる肉の軟化実験ーどの果物が一番？ー	15名	
			西田昌司 働く分子「蛋白質」を計ってみようー体の中で一番よく働いている「蛋白質」。多いか少ないか、それが問題ですー	15名	
		8月23日	張野宏也 身のまわりの水の汚れを化学的に調べよう！ 塩見尚史 微生物をもっと知ろう	8名 8名	
	理学館体験	6月22日	張野宏也	学科説明会・施設見学会	16名
		9月15日			約25名
		11月22日			約10名
		12月13日			約10名
		3月21日			約20名
	動物実験講習会（マウスの年間使用匹数：68匹）	6月7日	西田昌司		12名
		6月14日			12名
		11月22日			17名
		11月29日			16名
	平成26年度神戸高校SSH特別講義	11月26日・27日	中川徹夫	液体を混合すれば、体積は増加するか、減少するか、それとも変わらないか？ ー計算とマイクロスケール実験により検証するー	40名
	兵庫県立東灘高等学校特別授業	1月14日		マイクロスケール実験で鉛蓄電池を作り、その原理を理解しよう	19名
マロウブルー抽出液を用いたマイクロスケール実験で、水溶液の液性を識別しよう				29名	
オープンキャンパス					
第6回 地域創りリーダー養成プログラム発表会 4年生26人が語る！私が一番輝く瞬間☆	8月2日	鶴田英也 三宅志穂 吉田ともこ氏 (株)オレンジフリー	わくわく水の実験教室／わくわく土の観察会 西宮トレジャー！ ～知って食べよう地産地消～ こんなスポットあったんだ！！／それゆけ！もんど探検隊！	21名	

5 地域貢献

初夏の公開講座 情報化社会の光と影			
第1回	6月14日	インターネットの光と影 出口弘（環境・バイオサイエンス学科教授）	117名
第2回	6月21日	情報発信と情報管理：古代ギリシアの視点から 高橋雅人（総合文化学科教授）	90名
第3回	6月28日	ネットいじめと子どもの心 小林哲郎（心理・行動科学科教授）	95名
			【のべ参加人数 302名】

秋季公開講座 神戸女学院の教育			
第1回	10月11日	Voriesさんのキャンパスプラン 大川徹氏（神戸女学院中学部・高等学部元教諭）	73名
第2回	10月18日	地域資源を通して学ぶ科学する心 三宅志穂（環境・バイオサイエンス学科准教授）	49名
第3回	11月1日	神戸女学院の英語教育 原田園子（本学名誉教授）	49名
			【のべ参加人数 171名】

大学研究所主催 講演会			
6月20日	共に『痛み』を担うために： 非宗教的カウンセリングにおけるスピリチュアリティの位置づけ 横田恵子（文学部総合文化学科教授）		90名
10月31日	山上明美名誉教授による演奏会 山上明美（本学名誉教授）		220名
			【のべ参加人数 310名】

女性学インスティテュート主催 特別講演会			
4月25日	女性差別撤廃、ジェンダー平等の実現という課題にめぐりあって～わたしの物語～ 米田禮子氏（特定非営利活動法人 グループみこし 理事長）		
			【参加人数 約70名】

女性学インスティテュート主催 連続セミナー 母と娘			
第1回	5月23日	摂食障害と母娘関係 生野照子（本学名誉教授）	
第2回	5月30日	母と娘～その光と闇～ 國吉知子（人間科学部心理・行動科学科教授）	
第3回	6月6日	母たちと娘たちがいる風景：子育て支援の現場から 戸江哲理（文学部総合文化学科専任講師）	
第4回	6月13日	夜も更けた室内で、母娘の憎悪は燃え上がり —イングマル・ベルイマンの『秋のソナタ』 高村峰生（文学部英文学専任講師）	
			【のべ参加人数 144名 修了証交付 39名】

宗教センターアッセンブリーアワー 金曜日公開プログラム		
4月18日	さんぴかを歌おう♪ 斉藤言子（音楽学部教授）	110名
5月9日	神戸女学院とヴォーリズ建築～ Beauty Becomes a College ～ 佐伯裕加恵（史料室職員）	120名
6月13日	演奏会 ピアノリサイタル Boris Bekhterev（音楽学部元教授）	300名
6月27日	オルガンコンサート 片桐聖子（学院オルガニスト・日本基督教団神戸教会オルガニスト・本学卒業生） 前田直子（学院オルガニスト・日本基督教団豊中教会オルガニスト・本学卒業生）	200名
7月4日	ESD 学生研究発表会 大学院 人間科学研究科	70名
7月11日	大学院生による演奏会 大学院音楽研究科1年	130名
7月25日	礼拝 松田央（チャプレン・文学部総合文化学科教授）	40名
9月26日	礼拝 飯謙（学院チャプレン・学長）	40名
10月3日	重要文化財指定記念礼拝 岡田山での魅力—神戸女学院の教育 茂洋（本学名誉教授）	60名
11月14日	宗教音楽の会～モーツアルテウム音楽大学からゲストをお招きして～ Paul Roczek（ヴァイオリン モーツアルテウム音楽大学教授） Aloisia Dauer（ヴァイオリン モーツアルテウム音楽大学学生） Anuschka Cidlinski（ヴィオラ モーツアルテウム音楽大学学生） 辻井淳（ヴァイオリン 音楽学部准教授） 林裕（チェロ 音楽学部非常勤講師） Xavier LUCK（フルート 音楽学部専任講師） 佐々由佳里（ピアノ 音楽学部教授）	250名
11月21日	ボランティア・サポート講演会—アダプト・スポーツのボランティア— 金山千広（体育研究室教授）	60名
12月5日	クリスマスオルガンコンサート 西山聡子（学院オルガニスト・日本基督教団大阪教会オルガニスト・本学卒業生） 追中宏美（日本基督教団須磨教会オルガニスト・本学卒業生）	130名
12月12日	キャロルを歌おう♪ 斉藤言子（音楽学部教授）	85名
2015年 1月9日	新年礼拝 中野敬一（大学チャプレン・文学部総合文化学科准教授）	60名
1月16日	卒業生による演奏会 吉原玲奈（ピアノ・音楽学部卒業生）	140名
【登録人数 221名、のべ参加人数 1,795名】		

文学部開催 主催：公益財団法人 海外日系人協会		
5月5日	日系スカラーシップ事業「春期研修会」 Marcelo Fukushima（文学部英文学科准教授）	30名

音楽学部主催 子どものためのコンサート・シリーズ		
7月5日	第39回 子どものための七夕コンサート ～音楽で恋の魔法をかけよう～	631名
10月13日	第40回 子どものためのスペシャル・コンサート ～トロンボーンの魅力～	311名
12月13日	第41回 子どものためのクリスマス・コンサート ～オルガンと歌で綴るクリスマスの物語～	529名
【のべ入場者数 1,471名】		

音楽学部主催 子どものための音楽作りワークショップ	
9月27日	第5回 音で遊ぼう！子どものための音楽作りワークショップ
【音楽学部生 13名、学外者 4名、近隣の子どもたち 21名】	

音楽学部主催 音楽学部コンサート			
4月17日	2014年度 神戸女学院大学音楽学部新人演奏会	いずみホール	392名
4月24日	神戸女学院大学大学院音楽研究科 第13回 修士課程修了披露演奏会	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	135名
6月24日	ベガにオーケストラがやってきた！Vol. 5 ～神戸女学院大学音楽学部オーケストラ in 宝塚～ 〈第21回サマーコンサート〉	宝塚ベガ・ホール	274名
10月2日	第21回 オータムコンサート	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	298名
11月12日	神戸女学院大学大学院音楽研究科2年生による 音の饗宴 Vol. 8	兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール	157名
12月4日 12月5日 12月6日13時 12月6日18時	神戸女学院大学音楽学部音楽学科舞踊専攻 第6回 卒業公演	神戸女学院大学 エミリー・ブラウン記念館 地下2階 スタジオA	145名 138名 144名 150名
11月26日	神戸女学院大学音楽学部 定期演奏会「第九」	兵庫県立芸術文化センター KOBELCO(コベルコ)大ホール	937名
2015年 2月23～25日	2014年度卒業生 卒業演奏会	神戸女学院講堂	413名
3月5日 3月6日	神戸女学院大学音楽学部音楽学科 舞踊専攻 第9回公演	兵庫県立芸術文化センター 阪急中ホール	564名 625名
【のべ入場者数 4,372名】			

人間科学部 心理相談室主催				
	日程	担当教員	講義テーマ	参加者
心相ウィーク 講演会	7月30日	國吉知子	「子どものネガティブ行動に対処する」	約70名
“親をまなぶ” 連続講座 〈全5回〉	10月16日	國吉知子	「親子関係をよむ視点」	のべ 120名
	10月23日	國吉知子	【公開講座】「就学前の子どもへの対応(1) ～ママがセラピスト！：PCIT(親子相互交流療法)とは～」	
	10月30日	國吉知子	「就学前の子どもへの対応(2)～PCITのスキルを学ぶ～」	
	11月6日	須藤春佳	【公開講座】「児童期から思春期の子どものころ～親の見 守りと子ども同士の関係～」	
	11月13日	國吉知子	「親の不安に共振する子ども～親の“危険な”コミュニケー ション～」	
シンポジウム	2月28日	吾妻壮	「女性のこころとからだ～ストレス×うつ×ライフサイクル～」 高橋 美智子氏 (NPO法人【仕事と子育て】カウンセリングセンター カウン セラー・神戸親和女子大学非常勤講師・臨床心理士)〃	約70名
アウトリーチ 活動(講演)	2月16日	國吉知子	「親子相互交流療法(PCIT)とは～幼児と養育者のための 心理教育的セラピー～」(武庫愛の園幼稚園)	約40名

人間科学部主催・開催				
	日程	担当教員	講義テーマ	参加者
地域創りリーダー養成プログラムイベント	10月19日	鶴田英也	甲山おさんぽ隊～元気に親子で自然を学ぼう～	15名 大人5 子ども5
	12月14日	高岡素子 鶴田英也	西宮の特産品を味わおう～子どものもりもりクッキング～	5名
	8月11日	矢野円郁	わくわく野菜の収穫体験～夏野菜編～	11名 大人5 子ども6
	11月29日	三宅志穂	わくわく野菜の収穫体験～冬野菜編～	15名 大人7 子ども8
	8月8日	三宅志穂 高岡素子	わくわく新聞紙の工作教室～eco博士になろう～	17名
	11月29日	遠藤知二	20世紀にタイムスリップ～つくって遊んで学び体験～	6名
こどもサイエンス体験教室	11月1日	中川徹夫	ぶどうの皮に含まれる色素を使って水溶液のなかま分けをしよう	64名 大人34 子ども30
自然にふれあう体験型環境学習西宮市立甲東小学校	5月7日	野寄玲児	「自然観察－調べよう甲東の自然－」	164名
	7月9日			162名
	11月26日			166名
	2月26日			167名
尼崎フォレストの会	12月11日	野寄玲児	種子採集および自然観察会	10名
猪名川町環境住民会議	11月13日	横田弘文	猪名川町に生息する野生メダカの遺伝子型及びヒメダカ遺伝子の移入実態について	約15名
平成26年度後期宮水学園マスター講座	2月16日	横田弘文	沿岸海域における化学物質汚染の現状	約20名
シニア自然大学	12月17日	高岡素子	和食の栄養学	不明
	12月3日	遠藤知二	西宮の自然の豊かさを調べる－市民科学の可能性－	10名
	12月10日	張野宏也	地域の人々との共働による水域環境再生の試み	約15名
	12月17日	高岡素子	丹波シカの食資源化	約15名
神戸シルバーカレッジ	12月24日	三宅志穂	地域で育むサイエンスコミュニケーション	25名
	10月2日	張野宏也	身の回りの化学物質と上手につきあう方法	約50名
朝日親と子の自然環境教室	7月12日	遠藤知二	昆虫および昆虫と植物の共生	80名
コープこうべ・NPO LEAF	8月2日	遠藤知二	社家郷山の生きもの探検隊「見つけてみよう！山の生きもの、水辺の生きもの」	30名
宝塚市立にし図書館・西公民館・兵庫県立人と自然の博物館	8月22日	遠藤知二	サイエンスカフェ昆虫から読み解く宝塚の自然	25名

6 その他の事業

	学 院	大 学
4月	中高部長就任式 新任教職員就任式	入学式、入寮式 IP-TOEIC 全学部1年生対象テスト 新入生歓迎会・オリエンテーション、登録ガイダンス 新入生対象ITオリエンテーション・キャンパスツアー フレッシュマンキャンプ(六甲セミナーハウス、ウエスティンホテル淡路、シーサイドホテル舞子ビラ)
5月	創立者記念日墓前礼拝 愛校バザー	春季教授会研修会 米国ワイオミング大学学生交流プログラム(本学)
6月	初夏の公開講座	家庭会大学部会総会ならびに保護者懇談会(本学) 保護者懇談会(和歌山) 前期学生による授業評価アンケート実施 オープンキャンパス
7月	ヴァージニア・クラークソン記念館 献堂式 学院リトリート	保護者懇談会(四国) 音楽学部夏期講習会(本学) 大学職員SD研修会Ⅰ 米国ポーリンググリーン大学学生交流プログラム(本学)
8月		夏のオープンキャンパス 夏期語学研修(西オーストラリア大学、ニューカッスル大学、カナダヨーク大学、米国カリフォルニア大学アーバイン校)
9月		大学職員SD研修会Ⅱ オープンキャンパス ESD推進プログラム修了式 保護者のための就職セミナー
10月	「重要文化財 神戸女学院」指定 記念講演会 秋季公開講座	秋季教授会研修会 大学祭 保護者懇談会(本学・2年生保護者対象) インド、聖ジョセフ・カレッジ・オブ・コマース学生交流プログラム(本学) フィリピン、アサンプション大学研修プログラム
11月	秋季公開講座 宗教強調週間 教職員礼拝	宗教強調週間 オープンキャンパス オーストリア、モーツアルテウム大学学生交流プログラム(本学) フィリピン、ミリアム大学学生交流プログラム(本学) 後期学生による授業評価アンケート実施・授業公開 音楽学部定期演奏会 IP-TOEIC 全学部2年生対象テスト
12月	クリスマス礼拝	音楽学科舞踊専攻卒業公演 オープンキャンパス
1月		
2月	専任職員SD研修会	IP-TOEIC 全学部1年生・通訳プログラム受講生・英文学科 3年生対象テスト 卒論発表会、卒業演奏会、卒業研究発表会 春期語学研修(梨花女子大学、クイーンズランド大学、英国ヨーク大学)
3月		ハラスメント防止のための教授会研修会 学内企業セミナー 学位記授与式 大学職員SD研修会Ⅲ オープンキャンパス

	中高部	中高部 生徒の活動
4月	J1オリエンテーション J1デイキャンプ(1)(2) 中学部入学式、高等学部入学式 春の遠足 宗教部主催修養会(水上隣保館訪問) PTA総会 春の子ども会(S自治会・関学共催)	第68回会長杯争奪卓球選手権大会:3年生第2部準優勝(J3生) 2014ヨーロッパ女子数学オリンピック(EGMO)トルコ大会:銀メダル(S3生) 第67回西宮市民体育大会バドミントン大会高校の部:第3位(S3生、S2生、S1生4名) 第30回成田山全国競書大会:成田山賞(S2生) 第67回西宮市民体育大会卓球大会団体戦:第3位(J3生7名) 第67回西宮市民体育大会バレーボール競技:第5位(J3生10名、J2生6名)
5月	聖書を学ぶ会(6,10,1,2月の計5回) PTA岡田山散策会 教育実習 避難訓練	
6月	体育祭 人権学習会 PTA教養講座 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎訪問)	平成26年度阪神中学校男女バレーボール優勝大会:ベスト8(J3生10名、J2生6名) 兵庫県私立中学・高等学校連合会英語教育研究会主催第10回英語スピーチコンテスト:第1位(S2生) 第21回春季フォトコンテスト阪神支部予選:入選(S3生)、佳作(S2生) 第21回春季フォトコンテスト兵庫県本戦:入選(S3生)
7月	JS校内大会 リーダーシップ・トレーニングキャンプ 宗教部主催修養会(長島愛生園・邑久光明園訪問)	第34回西宮市中学校総合体育大会卓球大会団体戦:第3位(J3生7名、J2生) 第19回ディベート甲子園近畿・北陸地区予選:第3位(J3生3名)
8月	夏山登山 宗教部主催修養会(広島訪問) 訪豪研修旅行	数学甲子園2014(第7回全国数学選手権大会)予選:全国大会出場(S1生5名) 2014阪神ESSユニオンシナリオリーディングコンテスト:第1位(S2生2名、S1生3名) 第9回全日本小学生・中学生書道誌上展:ベスト100(J2生) 第19回全日本高校・大学生書道展:優秀賞(S3生1名、S2生2名)
9月	教職員研修会 文化祭 中学部入試説明会	平成26年度西宮市中学校新人大会第9回バドミントン競技大会女子団体:第3位(J2生5名、J1生) 税の書道:西宮納税貯蓄組合連合会会長賞(J2生) 2014年第1回絵画コンテスト:佳作(S2生) 平成26年度西宮・芦屋地区バドミントン交流大会女子団体:第2位(J2生5名、J1生) 平成26年度西宮市中学校新人大会第96回中学校卓球大会団体戦下級生の部:第3位(J1生7名)
10月	S2修学旅行、J3小旅行 S1一泊研修 J1、J2、S3遠足	西日本高校フランス語スケッチコンクール2014:大会実行委員会賞(S3生2名) 神戸女学院大学第5回絵本翻訳コンクール:佳作(S3生) 第56回市長杯争奪卓球選手権大会中学校2年生2部:準優勝(J2生) 第56回市長杯争奪卓球選手権大会中学校1年生1部:第3位(J1生) 第49回近畿中学校女子英語暗唱大会:第3位(J3生)
11月	キャンパス見学会 芸術鑑賞会 宗教強調週間 PTA宗教講話 秋の子ども会 人権学習会	第2回百合学院杯中学生・小学生英語暗唱大会:第5位(J3生) Show & Tell 近畿高校生プレゼンコンテスト:第3位(S1生) 平成26年度中学生の「税についての作文」:西宮宝塚租税教育推進協議会賞(J3生) 聖学院大学主催第10回高校生英語スピーチコンテスト:奨励賞(S2生、S1生) 第47回私学の書展:特選呉竹賞(J2生) 日本倫理・哲学グランプリ(国際哲学オリンピック国内予選):銀賞(S2生、S1生) 第38回兵庫県高等学校総合文化祭小倉百人一種かるた部門大会C組:優勝(S1生) ファッションシューズコンテスト高校生部門:最優秀賞(S2生) 第42回兵庫県私立学校読書感想文コンクール:特選(S2生2名、J2生2名)、入選(S3生、J2生)
12月	PTAクリスマス礼拝 クリスマス礼拝 宗教部・自治会共催修養会(釜ヶ崎訪問) 冬山スキー	第53回全国高等学校生徒英作文コンテスト:1年の部優秀賞(S1生)、1年の部入選(S1生)、2・3年の部優良賞(S2生) 第60回青少年読書感想文兵庫県コンクール:毎日新聞社賞(S2生) 第2回全国高校生英語スピーチコンテスト:第2位(S2生)
1月	文化スポーツ賞・部長賞表彰式 中学部入試	第26回上野学園ーゴードンストーン英語コンテスト:優勝(S1生) 神戸日米協会第22回高校生英語暗誦大会:第2位(S1生) 第25回日本数学オリンピック:成績優秀[ヨーロッパ女子数学オリンピック日本代表](S1生) 日本数学オリンピック:地区表彰(S1生2名) 日本ジュニア数学オリンピック:地区表彰(J3生3名)
2月	人権学習会	平成26年度第2回兵庫県中学校冬季テニス大会団体戦:第3位(J2生7名、J1生) 2015国際哲学オリンピック選考会:グランプリ[国際哲学オリンピック(IPO)日本代表](S2生) 平成26年度神戸新聞社杯阪神ESSユニオンシナリオリーディングコンテスト:第1位(S1生) 第30回全国学生書き初め展覧会毛筆の部:第30回展覧記念特別大賞(J3生) 第31回全国年賀はがきコンクール:文部科学大臣賞(J3生) JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2014:優秀賞(J2生)
3月	高等学部卒業式 PTA常任幹事会 讚美歌コンクール 中学部卒業式	ITCカウンスルNo. 3第4回高校生スピーチコンテスト:日本語の部優勝(S2生)、英語の部優勝(S2生) 2015年度近畿地区春季中学・高校ディベート交流大会:第2位(J3生4名) 第7回日本地学オリンピック(「グランプリ地球にわくわく2015」):日本地球惑星科学連合賞(S1生) 日本写真協会主催第40回2015JPS展:優秀賞(S3生)

Jは中学部、Sは高等学部、数字は学年を示す

7 施設・設備

ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事

----- 455 百万円

1955年に学院創立80周年記念事業として建てられた、中高部2号館の建替えを実施しました。1階には旧2号館にあった社会科教室及び小教室1室、2階には英語教育を充実するために最新の教育機器を導入したLL教室2室と、スピーチコンテストの指導練習のための録音室2室を配置しました。3階には多目的に活用可能な大教室（トリニティホール）を設けました。今ではクラブ活動、学年礼拝をはじめ、講演会、保護者懇談会等の多種多様な用途で利用されています。建物名は、2014年度は第2代校長に就任されたクラークソン先生が1879年に「英和女学校」と改称されてから135年となることから、先生の御名を頂き新築棟の名称（通称VC館）としました。



コミュニケーションセンター改修工事

----- 117 百万円

本建物は竣工後50年経過しており、金属建具、連結機及び空調機器の経年劣化が多岐に見られたため、外壁、屋上を含み全面改装しました。1階の多目的ホール（コムホール）には舞台を設け、映像機器や音響機器等もリプレイスし、生徒活動の練習、発表の場を設けました。2階には防音機能を完備し



た文化系クラブの練習室と、クラブ部室、合わせて9室を新たに設置しました。建物内部の照明器具はすべてLEDに取替え、トイレもヴァージニア・クラークソン記念館同様最新の洗浄便座仕様で全面改修を行い、外部にはスロープを設置しました。今回の改修により、学校行事やクラブ活動等の多種多様な場面での教育環境の充実が図られました。

文学部1号館改修工事

----- 65 百万円

本建物は講堂に次ぐ座席数を有する大教室があり、授業の他に公開講座、家庭会の会場として幅広く使用されています。しかし、竣工後50年経過しており、建築・設備機器の劣化が見られたため、2階の大教室の連結機、空調機の更新を行うと共に、1階の女子トイレを全面改修しブースを増やしました。また、本建物は地上2階建て建物となっていますが、負傷した学生や外来者の移動に支障をきたしていたため、建物内にエレベーターを設置し、教育環境の充実や使用者の利便性を考慮した改修を行いました。なお、本事業は文部科学省補助金（私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費）補助事業です。



新社交館バリアフリー化整備工事

----- 17 百万円

新社交館にはエレベーター設備がなく、車椅子を使用する学生は、地下1階のキャリアセンターまでの経路がない状態でした。そのため建築基準法に適合したスロープを設置する必要があり、建物外部にスロープを設け、キャリアセンターの資料室の建具を一部改修することにより、出入りを可能にしました。その結果、車椅子を使用する学生の利便性がよくなり、更に運搬の際の作業効率が軽減される建物となりました。



ジュリア・ダッドレー記念館 外壁塗装（東・北面）工事

----- 13 百万円

本建物は、竣工（1997年）後16年経過しており、外壁の汚れや露筋が見られました。また、建具周辺のシールが劣化しているため、室内側に雨漏りの形跡もありました。そのため、エアコン取替工事の際に東・北面の外壁の塗装等を実施しました。なお、南・西面の塗装については2013年度に既

図書館新館照明器具改修工事

----- 12 百万円

図書館新館は竣工後30年経過しており、設備機器は経年劣化により取替時期になっていました。特に開架書架の照明器具は常時点灯しており、他の建物の居室に比べて照明器具の劣化を速めていました。また長時間点灯しているために電気使用量も非常に多くなっていました。改修にあたっては、開架書庫の場所に人感センサーを設置すると共に、照明器具に電気消費量が少なく、長期間取替が必要ではないLED照明を採用した結果、電気使用量は改修前に比べ4割削減となりました。

8 入試に関する状況

● 神戸女学院大学

[2015年度入試概況]

今年度の入試については昨年までの状況にやや変化が見られました。数年間続いていた「文低理高」傾向がストップし、社会科学系の人気が戻りました。全国的に景気回復の兆候が見られた結果、私立大学志願者数は堅調に推移、国公立大学志向にはややかげりが見えました。

本学においても成績優秀な受験生を確保すべく、いくつかの入試制度を変更いたしました。その概要を以下に記載いたします。

1. 入学金を400,000円から200,000円に減額
2. 公募制推薦入試において学内併願を可能にしたこと
3. 一般入試A日程において3科目入試を追加
4. 一般入試A日程の選択科目において「日本史・世界史」を導入

その結果、公募制推薦入試の志願者に関しては大幅増、一般入試前期日程ではほぼ前年並みとなりました。

各入試制度において慎重に合否判定を実施した結果、今年度も必要想定入学者数を確保することができました。

次年度においても学外試験会場の増設等を計画し、より安定的な入学者数確保を目指してまいります。

オープンキャンパス 来場者数

開催日	名称	人数
6月22日	オープンキャンパス	417
8月2日	夏のオープンキャンパス	745
8月3日	夏のオープンキャンパス	691
9月15日	オープンキャンパス	709
11月22日	オープンキャンパス	146
12月13日	オープンキャンパス	209
3月21日	オープンキャンパス	423
総計		3,340

学外進学相談会

地区	対面	資料	計
北海道	0	1	1
宮城	0	1	1
静岡	3	1	4
愛知	2	2	4
石川	0	1	1
京都	2	2	4
大阪	13	6	19
兵庫	6	3	9
奈良	2	1	3
和歌山	1	1	2
岡山	3	1	4
広島	3	1	4
島根	1	0	1
徳島	2	1	3
香川	3	0	3
愛媛	1	0	1
高知	2	0	2
福岡	2	1	3
合計	46	23	69

対面 … 各会場に本学ブースを設置し、スタッフによる相談を実施

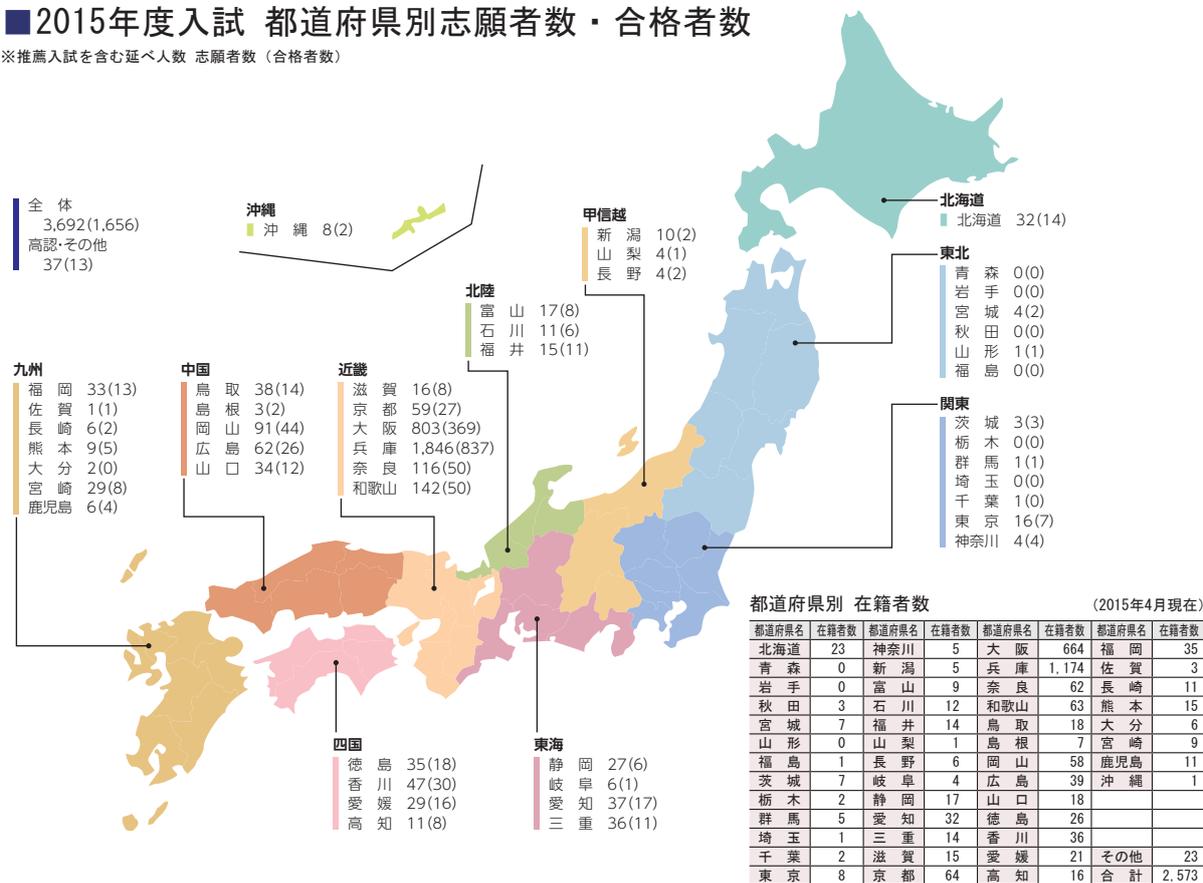
資料 … 会場において本学資料を配布

入試制度別状況

		志願者数	受験者数	合格者数	実質競争率	
一般入学試験	前期A日程	3科目型	425	419	177	2.4
		2科目型	642	633	234	2.7
		音楽学科	33	33	26	1.3
	前期B日程	426	422	169	2.5	
	前期C日程	364	213	97	2.2	
	前期D日程	センター1科目型	174	97	39	2.5
	センター2科目型	94	46	16	2.9	
大学入試センター試験を利用する入学試験	前期日程	2科目型	225	225	149	1.5
		3科目型	135	135	66	2.0
		4科目型	58	58	39	1.5
	後期日程	2科目型	54	54	38	1.4
		3科目型	35	35	17	2.1
一般入学試験 後期日程	4科目型	23	23	14	1.6	
一般入学試験 後期日程		146	141	59	2.4	
公募制推薦入学試験		593	592	263	2.3	
AO入学試験		35	33	25	1.3	
帰国子女入学試験		3	3	3	1.0	
社会人入学試験		0	—	—	—	
外国人留学生入学試験		0	—	—	—	
編入学試験		0	—	—	—	

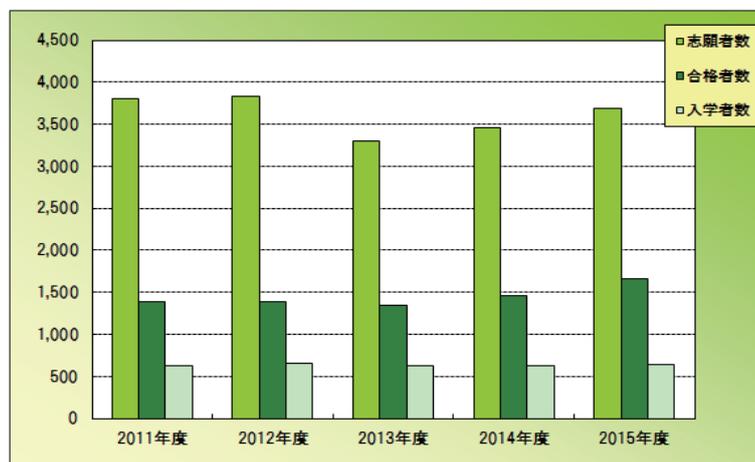
2015年度入試 都道府県別志願者数・合格者数

※推薦入試を含む延べ人数 志願者数 (合格者数)



	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
志願者数	3,816	3,825	3,297	3,454	3,692
合格者数	1,405	1,388	1,342	1,461	1,656
入学者数	629	655	623	630	644

2012年度 編入学試験で音楽学部1名入学



● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
志願者数	46	48	40	48	41
合格者数	34	25	25	34	30
入学者数	32	23	23	20	28

博士後期課程

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
志願者数	1	4	3	4	1
合格者数	0	3	2	4	1
入学者数	0	3	2	4	1

● 神戸女学院中高部

中学部

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
志願者数	260	277	257	214	223
合格者数	150	153	153	153	157
入学者数	136	142	141	141	140
転入学者数	—	—	—	1	0

高等学部

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
編入学者数	—	—	—	1	—

高等学部 全日制課程 普通科 募集なし

9 留学に関する状況

● 神戸女学院大学・大学院

〔2014年度留学概況〕

本学の教育理念の一つである「国際理解の精神」の涵養を目指し、2014年度も本学から海外協定大学への派遣並びに学内における国際交流の創出に取り組んできました。本年度は特に、前年度までに新規協定した海外大学との交換留学の具現化を含め、既存協定大学との交流の深耕につとめてまいりました。

2014年度には、交換留学協定大学である、イーストアングリア大学（イギリス）及びボーリンググリーン大学（アメリカ）へ本学から初の留学生を派遣すると同時に、後期よりそれぞれの大学からの交換留学生を受け入れました。また認定留学では、同じく後期より、2013年度にパートナーシップを結んだJSAF（日本スタディ・アブロード・ファンデーション）を通じオレゴン大学（アメリカ）へ、音楽学部からはモーツアルテウム音楽大学（オーストリア）への留学生派遣を開始いたしました。

既存協定大学との交流では、5月にワイオミング大学（アメリカ）、7月にボーリンググリーン大学（アメリカ）、10月にアサンプション大学（フィリピン）、セントジョセフカレッジ（インド）と11月にはミリアム大学（フィリピン）、モーツアルテウム音楽大学（オーストリア）からの短期研修生を受け入れ、学内での交流会、特別講義等を実施いたしました。海外からの短期研修生受入にあたっては、学内外で学生たちがボランティアガイドとして案内するKC Guideやホストファミリーの登録を募集し、学内での国際交流の機会を広げてまいりました。

従来からの取組みにおいては、兵庫県からの委託を受けた夏期休暇中のオックスブリッジプログラム（オックスフォード大学・ケンブリッジ大学の学生を講師に招いての英語合宿を行うもの）、交換留学生をサポートしながら交流を深める留学生バディ制度を継続するとともに、交流会（歓送迎会、留学生バディ主催の七夕とクリスマスパーティ）を開催しました。交換留学生に対しては、日本語授業の受講に加え、英語で日本文化を学ぶ“Introduction to Japanese Culture”と日本の現代事情を学ぶ“Current Issues in Japan”、留学生が希望する先生・

科目・言語を自由に選択し、マンツーマンで授業が受けられる“Tutorial for Exchange Student”を本年度も開講しました。なお、2月に開催された“にしのみや留学生日本語スピーチ大会”（西宮市国際交流協会主催）に交換留学生の3名が参加、日頃の日本語学習の成果を発揮し、本学の留学生（中国・広東外語外貿大学）が最優秀賞を受賞いたしました。

学内における語学面、留学情報のサポートとしては、留学準備を目的とした学内でのTOEFLテスト（年間5回）、米国領事館によるアメリカ留学説明会（5月実施）、ブリティッシュカウンシルによるイギリス留学説明会（6月実施）といった各種留学説明会や国際交流フェア、K-CLIPの留学生ブログ並びにメーリングリスト等により、定期的に情報を配信しています。

本年度における国際交流センターの新たな取り組みとしては、過去要望の多かった中期海外研修（カナダ）及び海外インターンシップを開発いたしました。さらに、ケンブリッジ大学ヒューズホール（イギリス）と大学間協定を締結し、語学研修を企画いたしました。海外インターンシップは協定大学のワイカト大学（ニュージーランド）における語学研修との組み合わせで本年度春期休暇中に実施、ヨーク大学（カナダ）の中期海外研修並びにケンブリッジ大学ヒューズホールについては、来年度夏期より実施を予定しております。

今後も国際交流センターでは、より充実した国際交流プログラムを提供し、学生達が「国際理解の精神」を体得できるよう国際交流事業を推進してまいります。

本学から海外へ

派遣留学	大学名	国名	人数	期間
	ロックフォード大学	アメリカ	2	1年
	ワイオミング大学	アメリカ	1	1年
	ポーリンググリーン大学	アメリカ	1	1年
	イーストアングリア大学	イギリス	1	1年
	梨花女子大学	韓国	2	1年
	ミリアム大学	フィリピン	2	5ヶ月
	アサンプシオン大学	フィリピン	2	5ヶ月
	国別集計	アメリカ	4	
	イギリス	1		
	韓国	2		
	フィリピン	4		
	計	11		

認定留学	大学名	国名	人数	期間
	ニューカッスル大学	イギリス	3	1年
	オレゴン大学	アメリカ	1	1年
	モーツアルテウム音楽大学	オーストリア	2	5ヶ月
	計	6		

中期英語留学	大学名	国名	人数	期間
	チャタム大学	アメリカ	3	7ヶ月
	計	3		

中期海外研修	大学名	国名	人数	期間
	カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	8	7ヶ月
	クイーンズランド大学	オーストラリア	8	7ヶ月
	計	16		

語学研修	大学名	国名	人数
	夏期：ヨーク大学	カナダ	17
	夏期：西オーストラリア大学	オーストラリア	9
	夏期：ニューカッスル大学	イギリス	13
	夏期：カリフォルニア大学アーバイン校	アメリカ	11
	春期：クイーンズランド大学	オーストラリア	17
	春期：ヨーク大学	イギリス	11
	春期：梨花女子大学	韓国	8
	春期：広東外語外貿大学	中国	8
	春期：ワイカト大学	ニュージーランド	6
	国別集計	カナダ	17
		オーストラリア	26
		イギリス	24
		アメリカ	11
	韓国	8	
	中国	8	
	ニュージーランド	6	
	計	100	

本学から海外へ	総計	136
---------	----	-----

海外から本学へ

	大学名	国名	人数	期間	備考
交換留学	ポーリンググリーン大学	アメリカ	1	1年	総合文化学科
	イーストアングリア大学	イギリス	1	1年	英文学科
	徳成女子大学	韓国	4	半年	総合文化学科（前期2名・後期2名）
	広東外語外貿大学	中国	1	1年	文学研究科
長期受入	国別集計	アメリカ	1		
		イギリス	1		
		韓国	4		
		中国	1		
	計		7		

	大学名	国名	人数	期間	備考
短期受入	ミリアム大学	フィリピン	12	15日	
	セントジョセフ・カレッジ・オブ・コマース	インド	4	9日	
	ワイオミング大学	アメリカ	18	18日	
	ポーリンググリーン大学	アメリカ	10	3日	
	アサンプションカレッジ	フィリピン	12	10日	
	モーツアルテウム音楽大学	オーストリア	3	8日	
		計	59		

海外から本学へ	総計	66	
---------	----	----	--

● 神戸女学院高等学部

本学から海外へ

	学校名	国名	人数	期間
公認留学	Mchenry West High School	アメリカ	1	1年
	計		1	

海外から本学へ

国名	人数	期間
タイ	1	1年
計	1	

10 卒業、修了、満期退学、博士学位授与の状況

● 神戸女学院大学

	文学部		音楽学部	人間科学部				計
	英文学科	総合文化 学科	音楽学科	人間科学科		心理・行動 科学科	環境・バイオ サイエンス学科	
				人間行動 科学専攻	人間環境 科学専攻			
2010年	162	220	51	1	—	98	95	627
2011年	177	225	49	—	—	91	81	623
2012年	186	227	50	—	—	98	91	652
2013年	165	226	55	—	—	98	83	627
2014年	149	203	52	—	—	105	97	606

2008年度（人間科学部）からは学科改編後の卒業生数
2010年度以降については前期末（当該年度9月）卒業を含む

● 神戸女学院大学大学院

修士・博士前期課程

	文学研究科			音楽研究科	人間科学研究科	計
	英文学専攻	社会学専攻	比較文化学 専攻	音楽芸術表現 専攻	人間科学専攻	
2010年	6	1	1	4	12	24
2011年	12	1	1	7	8	29
2012年	12	3	2	7	10	34
2013年	7		1	7	7	22
2014年	5		4	4	10	23

2010年度以降については前期末（当該年度9月）卒業を含む

博士後期課程

博士後期満期退学

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学 専攻	比較文化 学専攻	人間科学 専攻	
2010年	2	2	—	4
2011年	1	3	—	4
2012年	—	—	1	1
2013年	—	—	—	—
2014年	—	1	—	1
博士後期課程設置当初からの累計				

博士学位授与

	文学研究科		人間科学研究科	計
	英文学 専攻	比較文化 学専攻	人間科学 専攻	
2010年	1	—	1	2
2011年	—	—	2	2
2012年	—	1	—	1
2013年	—	1	—	1
2014年	1	—	—	1
博士後期課程設置当初からの累計				

● 神戸女学院中高部

	中学部
2010年	149
2011年	143
2012年	142
2013年	134
2014年	141

	高等学部
2010年	147
2011年	149
2012年	139
2013年	144
2014年	143

11 就職・進学状況等

● 神戸女学院大学

[2014年度就職概況]

2014年度は、企業の採用選考活動のスケジュールが12月広報開始、4月選考開始の最後の年となりました。大卒の求人倍率は、業界や企業規模によって数字にはかなり差がありますが、2015年3月卒は1.61倍と、2014年卒の1.28倍から大幅に改善し、好況感とともに企業の採用意欲は高まっていることがわかります。特に、2016年3月卒から変更される採用選考スケジュールが、実際に各企業の採用にどのように影響するか不透明なため、2015年卒を前倒しで採用しようとする企業が増えたこともあり、2015年卒の就職環境は、1年を通してかなり売り手市場であったと言えます。

キャリアセンターでは、これまでも企業との関係構築を重視してきましたが、スケジュール変更の前にターゲットとする大学との関係性を深める企業は多く、本学への来訪社数も例年をかなり上回りました。特に6月以降、久しぶりに採用を考えておられる企業から求人をいただくケースが増えましたが、求人をいただいた理由は、本学卒業生達が築いてきた実績によるもので、それぞれの場で活躍する卒業生の力がいかに大きいかが、改めて認識するところとなりました。

そういう状況下で、企業の内定出しは非常に早く、本学でも早い段階で進路を決定する学生が多く見られました。最終的に、本学2014年度卒業生の就職決定率は97%で、前年度比1.8ポイント上昇しています。就職希望率（卒業生数に対する就職希望者数の割合）は84.5%、卒業生数から大学院進学者数を引いた数に対する就職者数の割合も87.1%と、いずれもリーマンショック前に匹敵する高い数値になりました。

就職先業界別では金融・保険業が全体の33.6%で、最近の10年間では2008年度に次いで高く、卸売・小売業16.5%、サービス業11.9%、製造業10.5%と続いています。金融・保険業の採用者数は増えていますが、求人倍率は低く0.22倍です。全就職者の3分の1が金融・保険業に決定し、中でもメガバンクへの決定者は全体の10.7%。それは今年度の進路状況の1つの特徴であり、就職力でもあると言えます。

決定先企業の規模別では、従業員1,000人以上の大企業に就職する割合が47.2%と、こちらも例年を上

回りました。進路状況調査では決定先が第一希望群であるとの回答が4分の3を占め、学生達の満足度も高いと考えられます。

決定先企業にはメガバンクをはじめとする大手金融、航空、大手メーカー、専門商社など人気企業、グローバル企業が並んでいます。中でも学生達に人気の大手酒類メーカーに久しぶりに1名の決定者があったことは、後輩達のモチベーションアップに繋がりました。

2014年度のキャリアサポートで特に注力したのは、「知る場、学ぶ場」を学生達により多く提供することです。今年度3年生対象のセミナーは大小合わせて年間150日に及び、数・内容ともに充実しています。中でも、1～3年生を対象に新しく始めた「仕事発見セミナー」、「企業研究セミナー」では、延べ66社の企業にご協力いただき、各企業での仕事、企業や業界の特徴について、低学年の学生達にも学ぶ機会を広げました。3年生には、就職活動解禁直前の2月、卒業生が活躍している企業約80社を1社ずつ解説するセミナーを行い、エントリー前に、学生達が優良企業について知る機会を増やしています。また、3月に実施した学内企業セミナー（学内での企業説明会）には、過去最多となる99社がお越しくださり、延べ5,157名の3年生が参加しました。（昨年度実績：79社、延べ2,070名参加）

2016年3月卒の就職活動は大きく後ろ倒しとなり、3月から本格的にスタートしました。ただ、面接などの選考活動は8月1日以降とした「採用選考に関する指針」とは裏腹に、中堅中小企業を中心にすでに面接が始まっているところも少なからずあり、就職活動はやはり今年も長丁場になると思われます。引続き好況感の中にあり、2016年卒に対する求人数も2015年卒を上回ると予想されていますが、企業が新卒に求める質の高さは変わりません。2015年度も引続き1人でも多くの学生が希望する進路を得ることができるよう、個別の対応にもより注力し、全力でサポートをしていきます。

● 3年生対象キャリア支援プログラム実施状況

就職ガイダンス・セミナー		
4	25 (金)	インターンシップガイダンス① (学内公募)
6	6 (金)	インターンシップガイダンス② (就職ナビ)
	13 (金)	就職ガイダンス
	19 (木)	KC キャリアカフェ
	27 (金)	就職試験対策セミナー
7	2 (水)	日本航空 OG 座談会
	3 (木)	KC キャリアカフェ
	9 (水)	
	17 (木)	
	23 (水)	
	5 (土)	SPI 模擬試験①
	11 (金)	就活実感セミナー①
	18 (金)	就活実感セミナー②
25 (金)	就活実感セミナー③	
30 (水)	インターンシップ事前研修会	
8	4 (月)	就職文章力アップ講座【有料】
	6 (水)	
	20 (水)	社会人 START セミナー【事前申込制】
	21 (木)	
	26 (火)	KCエアラインスクール【有料】
	9/2 (火)	
27 (水)	自己分析とコミュニケーション講座	
29 (金)		
9	3 (水)	企業訪問ワークショップ【事前申込制】
	10 (水)	
	16 (火)	SPI 集中対策講座【有料】
	19 (金)	
	24 (水)	インターンシップ事後研修会
26 (金)	採用担当による就活キックオフセミナー	
10	3 (金)	企業の採用動向についてのセミナー
	17 (金)	職種研究セミナー
	18 (土)	SPI 模擬試験② (一般常識試験含む)【有料】
	31 (金)	就活マナー対策セミナー
11	7 (金)	筆記試験対策講座
	21 (金)	履歴書の書き方セミナー
	26 (水)	「就職と教職」座談会
	28 (金)	エントリーシート対策講座①
	29 (土)	SPI 数理解答講座

12	5 (金)	エントリーシート対策講座②	
	8 (月)	Uターン座談会	
	11 (木)	金融内定者座談会	
	13 (土)	SPI 模擬試験③ (一般常識試験含む)【有料】	
	18 (木)	KC キャリアカフェ	
		東京海上日動火災保険 OG 座談会	
	19 (金)	グループディスカッション対策講座：講義編	
	20 (土)	グループディスカッション対策講座：実践編	
	1	8 (木)	職種研究講座：事務職編
		13 (火)	職種研究講座：販売職編
		14 (水)	内定者企画「今日から始める就活」セミナー
			セミナー「ポジティブ就職活動を目指す！」
15 (木)		職種研究講座：営業職編	
20 (火)		業界研究講座：金融編①	
22 (木)		業界研究講座：金融編②	
24 (土)		エントリーシート直前対策講座	
26 (月)		業界研究講座：メーカー編	
27 (火)		業界研究講座：商社編	
2	2 (月)	「会社説明会の歩き方」セミナー	
	9 (月)	SPI テストセンター版模試 (各自自宅PCで)	
	9 (月)		
	13 (金)	模擬面接講座	
	16 (月)	マナー実践対策講座	
	18 (水)	SPI テストセンター対策講座	
	20 (金)	「中小企業の探し方」セミナー	
	24 (火)	「企業・業界の選び方」セミナー	
	25 (水)	「卒業生活躍企業紹介」セミナー	
	26 (木)	就職ガイダンス：就活スタート編	
27 (金)	「就職ナビの使い方」セミナー		
3	2 (月)	マナー実践対策講座	
	6 (金)		
	16 (月)		
	4 (水)	学内企業セミナー	
	13 (金)		
23 (月)			
26 (木)			

●他学年対象キャリア支援プログラム実施状況

4年生対象		
4	22(火)、30(水)	模擬面接講座
5	14(水)、16(金)	模擬面接講座
6	3(火)、12(木)、30(月)	学内企業説明会
	12(木)	就活リカバリー講座
7	15(火)、22(火)、23(水)	学内企業説明会
9	17(水)	ホンキの就職
	29(月)	学内企業説明会
10	3(金)、9(木)、17(金)	学内企業説明会
	21(火)、28(火)	
12	17(水)	新社会人お役立ちセミナー
2	5(木)	学内企業説明会

1～3年生対象				
6	25(水) 27(金)	就職活動体験報告会		
	30(月)			
7	2(水) 4(金)	就職活動体験報告会		
	10(木) 16(水) 24(木)			
	10		20(月)	仕事発見セミナー(放送局:報道)
			21(火)	仕事発見セミナー(生命保険)
27(月)		仕事発見セミナー(銀行①)		
30(木)		仕事発見セミナー(ホテル)		
11	4(火)	仕事発見セミナー(病院)		
	5(水) 6(木)	就職活動体験報告会		
	10(月)		仕事発見セミナー(飲料メーカー)	
	11(火)	仕事発見セミナー(専門商社①)		
	13(木)	仕事発見セミナー(化粧品)		
	17(月) 18(火) 19(水) 20(木)	就職活動体験報告会		
	17(月)		仕事発見セミナー(旅行業界)	
	18(火)		仕事発見セミナー(アパレル)	
	20(木)		仕事発見セミナー(信用金庫)	
	25(火)	仕事発見セミナー(専門商社②)		
	27(木)	仕事発見セミナー(ブライダル)		
	12	1(月)	仕事発見セミナー(損害保険①)	
		2(火)	仕事発見セミナー(銀行②)	
		4(木) 5(金)	就職活動体験報告会	

12	4(木)	仕事発見セミナー(証券)
	8(月)	仕事発見セミナー(セキュリティーサービス)
	11(木)	仕事発見セミナー(医薬品)
	16(火)	仕事発見セミナー(グランドスタッフ)
	18(木)	仕事発見セミナー(銀行③)
1	19(月)	仕事発見セミナー(損害保険②)
2	3(火) ~27(金)	企業研究セミナー

低学年対象			
6	20(金)	1年	環境・バイオサイエンス学科1年生キャリアガイダンス
7	4(金)	1年	キャリアガイダンス①
		2年	進路ガイダンス
	11(金)	1年	総合文化学科1年生キャリアガイダンス
12	25(金)	1年	心理・行動科学科1年生キャリアガイダンス
		12(金)	1年
		2年	就職ガイダンス

学年不問		
7	17(木)	公務員ガイダンス
	31(木)	航空業界セミナー
11	1(土)	学内OG訪問会

その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・秘書技能検定講座 2級 準1級 春期・秋期 実施 ・公務員受験対策講座 春期・夏期 集中講座実施 ・キャリアカウンセラーによる個別面談実施 (夏期休暇中を除く通年) ・キャリアカウンセラーによる3年生対象自己PR 全員面談実施 11~12月 ・証明写真学内撮影会実施 (12月2~5日) 	

主な就職先(2014年度)

企業名等	企業名等	企業名等
建設業	クラレトレーディング	東京海上日動火災保険
積水ハウス	サンコーインダストリー	三井住友海上火災保険
製造業	三陽商会	兵庫六甲農業協同組合
アシックス	神明ホールディング	SMBC センターサービス
伊藤園	住友商事マシネックス	不動産業
イトーキ	ダイワボウ情報システム	イオンモール
宇仁繊維	布亀	積和不動産関西
大阪シーリング印刷	阪急阪神百貨店	三井不動産リアルティ
サントリーホールディングス	阪和興業	宿泊業
住友電気工業	三井物産プラスチック	帝国ホテル
ダイキン工業	三菱商事パッケージング	ミリアルリゾートホテルズ
大日本除虫菊(KINCHO)	MonotaRo	教育、学習支援業
トブコン	ヤナセ	ABC Cooking Studio
ハイレックスコーポレーション	金融業、保険業	医療、福祉
日立製作所	みずほフィナンシャルグループ	愛仁会グループ
ファミリア	三井住友銀行	大阪府済生会吹田病院
ヤンマー	三菱東京UFJ銀行	宝塚第一病院
ローム	りそなホールディングス	西宮渡辺病院
情報通信業	池田泉州銀行	淀川キリスト教病院
岩手めんこいテレビ	関西アーバン銀行	サービス業
建運輸業、郵便業	但馬銀行	インテリジェンス
全日本空輸	みなと銀行	エイチアールワン
ANA 大阪空港	紀陽銀行	春日大社
ANA 中部空港	京都銀行	サントリーバブリティサービス
ANA 成田エアポートサービス	福岡銀行	高見(TAKAMI BRIDAL)
K スカイ	三井住友信託銀行	中央復建コンサルタンツ
JAL スカイ大阪	尼崎信用金庫	日本中央競馬会
大阪市交通局	大阪シティ信用金庫	阪急デザインシステムズ
上組	兵庫信用金庫	ベネフィット・ワン
ケイラインロジスティクス	SMBC 日興証券	読売旅行
三菱倉庫	大和証券	公務
日本郵便	野村証券	厚生労働省
卸売業、小売業	アフラック	大阪狭山市
AOKI ホールディングス	日本生命保険	神戸市
青山商事	住友生命保険	奈良県
アズワン	明治安田生命保険	北九州市
加藤産業	損害保険ジャパン日本興亜	兵庫県警察

業種別に記載

進学先(2014年度)

学校名	人数	学校名	人数
文学部 英文学科		京都ノートルダム女子大学大学院心理学研究科	1
神戸女学院大学大学院文学研究科	3	関西大学大学院心理学研究科(専門職大学院)	1
文学部 総合文化学科		延世大学大学院韓国学協同課程	1
京都外国語大学大学院外国語学研究科	1	神戸女学院大学大学院人間科学研究科	5
大阪芸術大学大学院芸術研究科	1	人間科学部 環境・バイオサイエンス学科	
甲南大学大学院人文科学研究科	1	京都大学大学院生命科学研究科	1
神戸女学院大学大学院文学研究科	2	立命館大学大学院政策科学研究科	1
音楽学部 音楽学科		大阪大学大学院生命機能研究科	1
桐朋学園大学大学院大学音楽研究科	1	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科	1
鹿児島大学大学院教育学研究科	1	奈良教育大学教職大学院教育学研究科	1
神戸女学院大学大学院音楽研究科	4	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科	3
人間科学部 心理・行動科学科		鳴門教育大学大学院学校教育研究科	1
愛知淑徳大学大学院心理医療科学研究科	1	神戸女学院大学大学院人間科学研究科	3

年度毎の就職決定状況

		卒業生数	希望者数	決定者数	決定者／ 希望者	進学者数	決定者／ (卒業生－進学者)
2010年度	英文	160	128	123	96.1%	8	80.9%
	総合文化	220	182	159	87.4%	2	72.9%
	音楽	51	19	16	84.2%	6	35.6%
	心理・行動	99	79	72	91.1%	7	78.3%
	環境・バイオサイエンス	95	78	70	89.7%	7	79.5%
	総計	625	486	440	90.5%	30	73.9%
2011年度	英文	174	145	130	89.7%	4	76.5%
	総合文化	222	191	170	89.0%	2	77.3%
	音楽	48	25	20	80.0%	10	52.6%
	心理・行動	90	68	63	92.6%	6	75.0%
	環境・バイオサイエンス	79	65	59	90.8%	7	81.9%
	総計	613	494	442	89.5%	29	75.7%
2012年度	英文	183	149	144	96.6%	5	80.9%
	総合文化	224	187	179	95.7%	8	82.9%
	音楽	48	23	23	100%	5	53.5%
	心理・行動	96	72	69	95.8%	4	75.0%
	環境・バイオサイエンス	91	78	77	98.7%	5	89.5%
	総計	642	509	492	96.7%	27	80.0%
2013年度	英文	159	128	122	95.3%	10	81.9%
	総合文化	223	188	181	96.3%	9	84.6%
	音楽	52	17	15	88.2%	12	37.5%
	心理・行動	95	71	67	94.4%	8	77.0%
	環境・バイオサイエンス	83	71	67	94.4%	6	87.0%
	総計	612	475	452	95.2%	45	79.7%
2014年度	英文	145	130	129	99.2%	3	90.8%
	総合文化	198	177	174	98.3%	5	90.2%
	音楽	50	26	22	84.6%	6	50.0%
	心理・行動	103	90	88	97.8%	9	93.6%
	環境・バイオサイエンス	96	77	72	93.5%	12	85.7%
	総計	592	500	485	97.0%	35	87.1%

備考 前期末卒業を含まない
 就職者：正規の職員・従業員、自営業主等（音楽講師等、自営とみなした者を含む）
 正規の職員ではない者（雇用期間が1年以上かつフルタイム勤務相当の者）
 進学者：大学院進学者のみ（海外大学院含む）

● 神戸女学院中高部 進学状況は非公表

Ⅲ. 財務の概要

1 2014年度決算の概要

収入の部については、大学において在籍数の多かった学年の卒業等に伴い、在校生数が減少し、学生生徒等納付金は前年度比 58 百万円の減となりました。しかし、私立大学等経常費補助金の一般補助において教育研究経費等を基礎として算定される増減率がプラスに作用するとともに、特別補助では私立大学等改革総合支援事業として新たに追加されたタイプ 4「グローバル化」に採択されたことで、経常費補助金は前年度比 51 百万円の増となりました。さらに、前年度より減少したものの、文学部 1号館エレベーター設置や学内 LAN 無線化のための施設整備費補助金等を確保した結果、補助金収入は全体で前年度比 26 百万円の増となりました。また、遺贈による大口寄付金（1 億 44 百万円）を受けたことにより寄付金収入も前年度比 1 億 41 百万円増加し、帰属収入は前年度比 14 百万円増の 52 億 46 百万円となりました。

消費支出の部については、前年に引き続き、本年度も定年退職者が多く人件費が高水準で推移したこと、またヴァージニア・クラークソン記念館建設に伴う修繕費の増加等から、前年度比 1 億 34 百万円増の 49 億 22 百万円となりました。

その結果、帰属収支差額は 3 億 23 百万円の収入超過（前年度比 1 億 21 百万円減）となりましたが、帰属収支差額比率については 6.2%と、目標値である 8.8%には至りませんでした。

一方、文学部 1号館改修工事に伴う建物支出 49 百万円や新社交館バリアフリー化整備工事に伴う構築

物支出 14 百万円などの設備投資費用に、設備投資にかかる借入金返済（42 百万円）や、奨学基金などの基金への組入額 2 億 81 百万円を加え、本年度は 4 億 3 百万円の基本金組入が必要となりました。その結果、消費収支差額は、80 百万円の消費支出超過となりましたが、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として 2 億 36 百万円の借入を実行したことにより、41 百万円の基本金取崩が発生し、翌年度繰越消費支出超過額は 10 億 16 百万円となりました。2015 年度以降も、大学入学金減額による減収や、トイレ等の改修工事費用の負担増が見込まれることから繰越消費支出超過が見込まれるため、引き続き収支均衡に向けた努力を進めてまいります。

また、資金収支についてみると、収入の部は、学生生徒等納付金や入学金前受金の減を寄付金収入および補助金収入の増加によってカバーし、さらに、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として長期借入を実行した結果、大幅な増収となりました。

一方、支出の部は、前年度に比べ、施設関係支出は 1 億 39 百万円減少したものの、コミュニケーションセンターや図書館新館開架書庫照明改修工事などにより修繕費は 75 百万円増加し、さらに、遺贈による大口寄付金を奨学基金に組み入れた結果、資産運用支出も前年度比 1 億 91 百万円増加し、次年度繰越支払資金は前年度比 42 百万円増の 26 億 59 百万円に留まりました。

2 資金収支計算書

資金収支計算書は、学校法人における当年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当年度における現金・預金の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。

大科目レベルの資金収支計算書は、表 1 のとおりとなりました。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2014 年度の本学院の資金収支計算書の概要について補正後の予算と対比しながら以下に記載します。

収入の部

【学生生徒等納付金収入】

授業料や入学金などの学生生徒等納付金収入は、ほぼ予算どおりの 40 億 93 百万円となりました。

【手数料収入】

入学検定料などによる手数料収入は、入試制度の追加設定や広報活動の強化等を図った結果、ほぼ予算どおりの 94 百万円となりました。

【寄付金収入】

本学院在校生の保護者、同窓生、企業や団体、教職員などからの寄付による寄付金収入は、予算比 9

百万円増の2億10百万円となりました。なお、資金収支計算書には、現預金の動きを伴わない現物寄付金は含まれていません。

【補助金収入】

国や地方公共団体等からの補助金収入は、私立大学等経常費補助金が見込みよりやや増え、予算比4百万円増の5億15百万円となりました。

【資産運用収入】

本年度より金銭信託による運用を開始した結果、予算をやや上回る74百万円の収入を確保しました。

【資産売却収入】

資産売却収入は予算どおり、車両買換に伴う下取り価格の5万円となりました。

【事業収入】

事業収入は、ほぼ予算どおりの87百万円となりました。主な内訳は、学生寮の寮費収入やIT関係の公開講座収入などによるものです。

【雑収入】

雑収入は、主に私学退職金財団からの交付金収入によるものであり、予算比24百万円増となりました。

【借入金等収入】

本年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として、日本私立学校振興・共済事業団より2億36百万円の新規借入を実行しました。

【前受金収入】

2015年度の授業料や入学金などで構成される前受金収入は、入学生が予測人数より増加したため、予算比23百万円増の7億10百万円となりました。

【その他の収入】

その他の収入は、ほぼ予算通りの2億72百万円となりました。

【管理経費支出】

管理経費は、予算比9百万円減の3億24百万円となりました。主として、広告宣伝費支出、報酬費支出が見込みを下回ったことによるものです。

【借入金等利息支出】

借入金等利息支出の3百万円は、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の支払利息額です。

【借入金等返済支出】

前記、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金の約定返済分です。

【施設関係支出】

建物や構築物などへの支出である施設関係支出は、ほぼ予算どおりの2億79百万円となりました。内訳は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事、コミュニケーションセンター改修工事、文学部1号館改修工事などの建物支出(2億48百万円)、新社交館バリアフリー化整備工事などの構築物支出(30百万円)です。

【設備関係支出】

教育研究用機器備品や資産計上する図書などへの支出で構成される設備関係支出は、ほぼ予算どおりの1億39百万円となりました。主な内訳は、中高部の上記新築・改修工事に伴う備品整備や大学での無線ネットワークシステム導入、文学部1号館21教室の机・椅子入替などの教育研究用機器備品支出(1億4百万円)、図書支出(23百万円)が該当します。

【資産運用支出】

資産運用支出は、3億31百万円となりました。主な内訳は、第3号基本金引当資産への積増し分(2億81百万円)です。

支出の部

【人件費支出】

教職員の給与・賞与や退職金の支払いによる人件費支出は、ほぼ予算どおりの30億93百万円となりました。

【教育研究経費支出】

教育研究のために支出した経費は、予算比32百万円の減となりました。主として、業務委託費支出の減によるものです。

(表1)資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
学生生徒等納付金収入	4,094	4,093	4,151	△ 58	大学院の人数は増加したものの、大学では在籍学生数の多かった学年の卒業等に伴い在籍学生数が30名程度減少したこと等により、前年度比58百万円の減となりました。
手数料収入	94	94	90	4	入学検定料などの手数料収入は、大学において入試制度を一部変更したことなどにより志願者数がやや増加し、前年度比では微増しています。
寄付金収入	200	210	70	140	本年度は、卒業生からの遺贈として、1億44百万円の大口寄付を受けたことにより、前年度比1億40百万円の増となりました。なお、寄付の大半は、教育振興会を通じての寄付です。
補助金収入	511	515	489	26	前年度より施設整備費補助金等が減少した一方、大学の経常費補助金において増減率の改善による一般補助金増(41百万円)、改革総合支援事業の採択による特別補助金増(10百万円)等により増加しています。
資産運用収入	67	74	59	15	本年度より、金銭信託による運用を開始した結果、奨学金基金運用収入、受取利息・配当金収入の合計額は13百万円増加しています。
資産売却収入	0	0	47	△ 47	前年度は、有価証券売却収入を計上していましたが、今年度は車両売却時の下取り価格が計上されているのみです。
事業収入	87	87	91	△ 4	学生寮の運営や公開講座の開講に伴う収入、受託事業収入が計上されており、ESDプログラム終了に伴うKISH(留学生寮)収入の減などにより、前年度比では微減となりました。
雑収入	145	169	248	△ 79	長期勤続の定年退職者が多かった前年度よりも退職者が減少したこと等により、私学退職金財団交付金収入は前年度比88百万円の減となりました。
借入金等収入	236	236	-	236	日本私立学校振興・共済事業団より、ヴァージニア・クラークソン記念館の新築資金として新たに借入を行いました。
前受金収入	687	710	821	△ 111	翌年度の授業料や入学金などの前受金収入は、大学入学金を40万円から20万円に減額したことにより、入学金前受金収入が1億31百万円減少し、前受金収入は1億11百万円の減収となっています。
その他の収入	272	272	251	21	本年度は退職給与引当特定資産からの繰入収入(前年度16百万円)を計上していませんが、退職金財団をはじめとする前期末未収入金収入が37百万円増加したため、全体としては前年度比21百万円の増となりました。
資金収入調整勘定	△ 946	△ 968	△ 1,044	76	前期末前受金はほぼ前年度並みですが、退職金財団をはじめとする前期末未収入金が定年退職者の減少等により前年度実績比82百万円減少したため、マイナス調整額が76百万円減少しています。
前年度繰越支払資金	2,617	2,617	2,567	50	
収入の部合計	8,067	8,112	7,844	268	
支出の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
人件費支出	3,080	3,093	3,107	△ 14	ほぼ、前年度並みの支出となりました。
教育研究経費支出	1,161	1,128	1,051	77	本年度は、コミュニケーションセンターや図書館新館開架書庫照明改修工事などの修繕費の増加(75百万円増)や、消耗図書費の増加(10百万円増)などにより、全体では77百万円の増加となっています。
管理経費支出	334	324	301	23	前年度に引き続き、受験者数確保の強化を図るため、広告宣伝費を増やした(11百万円増)ことなどによります。
借入金等利息支出	3	3	4	△ 1	借入金の約定返済に伴う減少です。
借入金等返済支出	102	102	102	0	日本私立学校振興・共済事業団への約定返済分であり、前年度から変動はありません。
施設関係支出	280	279	418	△ 139	前年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事にかかる建設仮勘定支出2億65百万円を計上していましたが、本年度は当工事費用に加え、文学1号館改修工事やコミュニケーションセンター改修工事の費用等を計上しています。
設備関係支出	138	139	129	10	本年度は、LA1-21の机・椅子入替(12百万円)や無線ネットワークシステム(11百万円)などの教育研究用機器備品支出(1億4百万円)、図書支出(23百万円)、その他のソフトウェア支出(8百万円)等を計上しています。
資産運用支出	303	331	140	191	本年度の主な内訳は、第3号基本金引当資産支出(2億81百万円)であり、遺贈による新たな奨学金基金設定等に伴う第3号基本金組入額が増加(1億55百万円増)したことにより、大幅に増加しています。
その他の支出	193	197	130	67	設備関係未払金の減等に伴う前期末未払金支払支出の増(71百万円増)の影響により、前年度比では67百万円増加しています。
資金支出調整勘定	△ 128	△ 146	△ 157	11	前期末未払金の減(14百万円)および前期末前払金の増(3百万円)によるものです。
次年度繰越支払資金	2,600	2,659	2,617	42	以上の要因により、本年度末の現金と預金の残高は、前年度比42百万円の増となりました。
支出の部合計	8,067	8,112	7,844	268	

3 消費収支計算書

消費収支計算書は、学校法人における今年度の消費収入（学校法人の負債とならない収入である帰属収入から基本金に組入れる額を控除して計算するもの）、消費支出（当該年度において消費する資産の取得価額及び用役の対価に基づいて計算するもの）の内容及び均衡状態を明らかにすることを目的に作成している計算書類です。学校法人は営利法人ではないため、基本金組入れを行った後の消費収入と消費支出が長期的にほぼ同額でつり合うことが望ましいとされています。

大科目レベルの消費収支計算書は、表2のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

2014年度の本学院の消費収支計算書の概要について以下に記載します。

消費収入の部

【帰属収入合計】

学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金、資産運用収入、事業収入、雑収入については、寄付金に現物寄付（1百万円）が含まれることを除き、ほぼ資金収支計算書の収入の部と同様の内容です。なお、資産売却差額については、車両の下取りによる売却益を計上しているのみです。

これにより帰属収入の合計は、予算比44百万円増の52億46百万円となりました。

【基本金組入額】

第1号基本金（学校法人が保有する固定資産のうち、教育の充実に用いられるものを組み入れる）へ1億22百万円を組入れました。主な内訳としては、文学部1号館改修工事による建物の増加（49百万円）や新社交館バリアフリー化整備工事による構築物の増加（14百万円）などの固定資産取得によるもののほか、借入金返済分42百万円も組入れています。

また、第3号基本金（奨学金などの教育研究活動に基金の運用果実をもって運営するために組み入れる）へ2億81百万円を組入れました。このうち、1億44百万円は、遺贈による新たな奨学基金設置に伴う組入れです。

【消費収入の部】

上記により消費収入の部合計は、予算比1億2百万

円増の48億42百万円となりました。

消費支出の部

【消費支出の部】

人件費は、資金収支計算書の人件費支出から退職金支出（2億14百万円）を控除し、退職給与引当金繰入額（2億43百万円）を加算しています。

教育研究経費と管理経費は、資金収支計算書の各経費支出に減価償却額（計3億18百万円）を加算していることが大きな違いです。そのほかは、ほぼ資金収支計算書と同様であり、結果、消費支出の部は、ほぼ予算どおりの49億22百万円となりました。

なお、本年度はヴァージニア・クラークソン記念館新築工事資金として2億36百万円の借入を実行したことにより、基本金を41百万円取り崩しています。

(表2)消費収支計算書

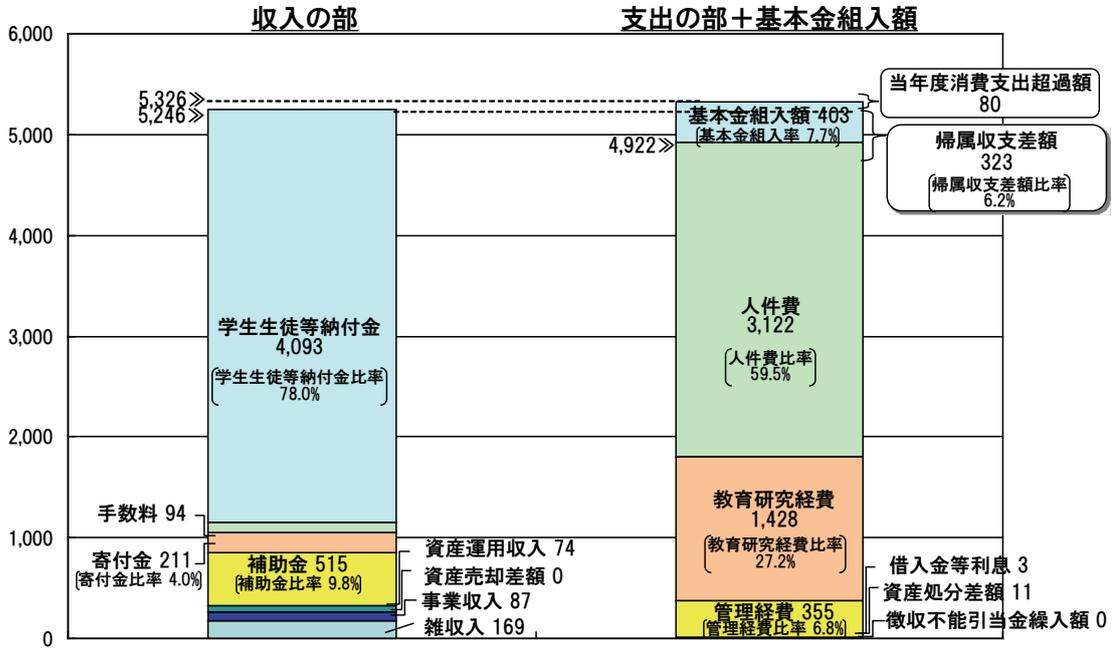
(単位:百万円)

消費収入の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
学生生徒等納付金	4,094	4,093	4,151	△ 58	資金収支計算書と同様です。
手数料	94	94	90	4	
寄付金	201	211	70	141	資金収支計算書計上額に加え、図書等の現物寄付金1百万円を計上しています。
補助金	511	515	489	26	資金収支計算書と同様です。
資産運用収入	67	74	59	15	
資産売却差額	0	0	26	△ 26	前年度は、保有債券の売却により、有価証券売却差額26百万円を計上しましたが、本年度は車両下取りによる売却益が計上されているのみです。
事業収入	87	87	91	△ 4	資金収支計算書と同様です。
雑収入	145	169	252	△ 83	資金収支計算書とほぼ同様です。
帰属収入合計	5,201	5,246	5,232	14	以上の要因により、前年度比14百万円の増となりました。
基本金組入額合計	△ 462	△ 403	△ 535	132	今年度の主な組入内容は、文学部1号館改修工事による建物増加(49百万円)に伴う組入、借入金返済に伴う組入(42百万円)、第3号基本金組入(2億81百万円)などです。
消費収入の部合計	4,739	4,842	4,697	145	消費収入の部合計は、前年度比1億45百万円増となりました。
消費支出の部					
科 目	本年度 予算	本年度 決算(A)	前年度 決算(B)	(A)-(B)	対前年度比増減要因
人件費	3,095	3,122	3,093	29	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
教育研究経費	1,448	1,428	1,341	87	資金収支計算書に減価償却費(2億87百万円)を加算しています。増加要因は、資金収支計算書と同様です。
管理経費	366	355	333	22	資金収支計算書に減価償却費(31百万円)を加算しています。増加要因は、資金収支計算書と同様です。
借入金等利息	3	3	4	△ 1	資金収支計算書と同様です。
資産処分差額	12	11	15	△ 4	各種改修工事等に伴い発生する固定資産処分差額は、前年度実績比3百万円減の11百万円となりました。なお、本年度は有価証券処分差額を計上していません。
徴収不能引当金繰入額	—	0	0	0	貸与奨学金にかかる徴収不能見込額を計上しています。
消費支出の部合計	4,924	4,922	4,788	134	消費支出の部合計は、前年度比1億34百万円の増となりました。
当年度消費収入 (△支出)超過額	△ 184	△ 80	△ 91	11	以上の要因により、本年度の消費支出超過額は、前年度並みとなりました。
前年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 977	△ 977	△ 886	△ 91	
基本金取崩額	—	41	—	41	本年度は、学校法人、高等学部、中学部において第1号基本金取崩となりました。ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事のための資金として、本年度に2億36百万円を借り入れ、同額未組入となったことが主な要因です。
翌年度繰越消費収入 (△支出)超過額	△ 1,162	△ 1,016	△ 977	△ 39	以上の要因により、消費収支差額の部は、前年度より支出超過額が39百万円増加し、10億16百万円の繰越消費支出超過となりました。
帰属収支差額	277	323	444	△ 121	帰属収入合計から消費支出の部合計を差し引いたもので、学校の施設設備等の取得財源や借入金の返済財源となります。(企業会計上の当期利益金にほぼ相当するものです。)

(図1)

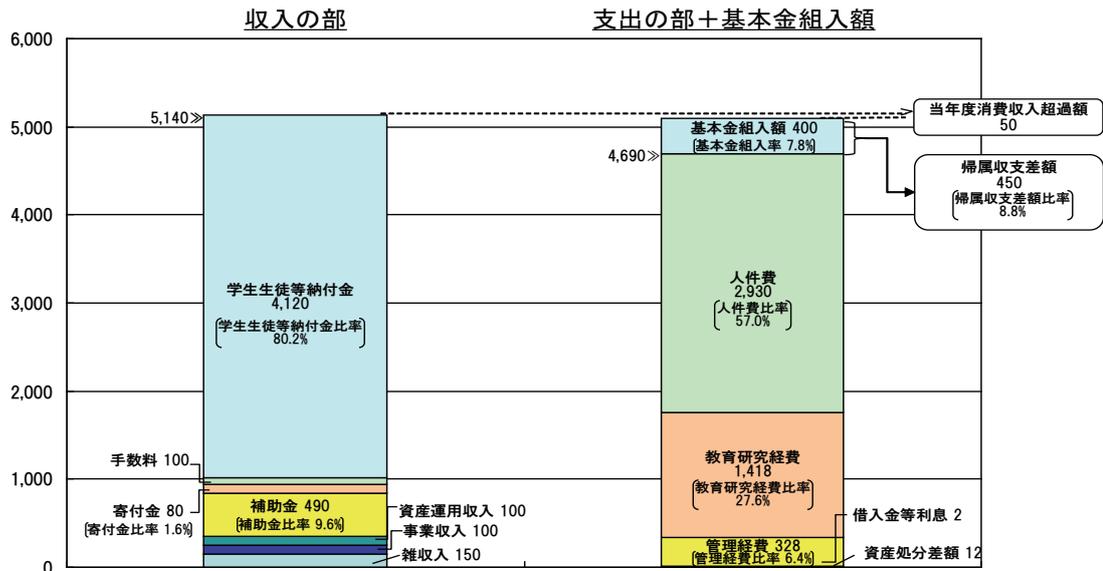
2014(平成26)年度消費収支の概要

(単位:百万円)



2013~2017年度 目標消費収支の概要

(単位:百万円)



(表3)消費収支内訳表(2014(平成26)年度)

(単位:百万円)

消費収入の部				
部門	学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部	神戸女学院 中学部
学生生徒等納付金	—	3,466	289	338
手数料	—	89	0	5
寄付金	—	196	7	7
補助金	—	285	116	112
資産運用収入	—	56	8	8
資産売却差額	—	0	0	0
事業収入	—	87	—	—
雑収入	23	124	8	13
帰属収入合計	23	4,306	430	485
基本金組入額合計	—	△ 367	△ 18	△ 18
消費収入の部合計	23	3,939	412	467

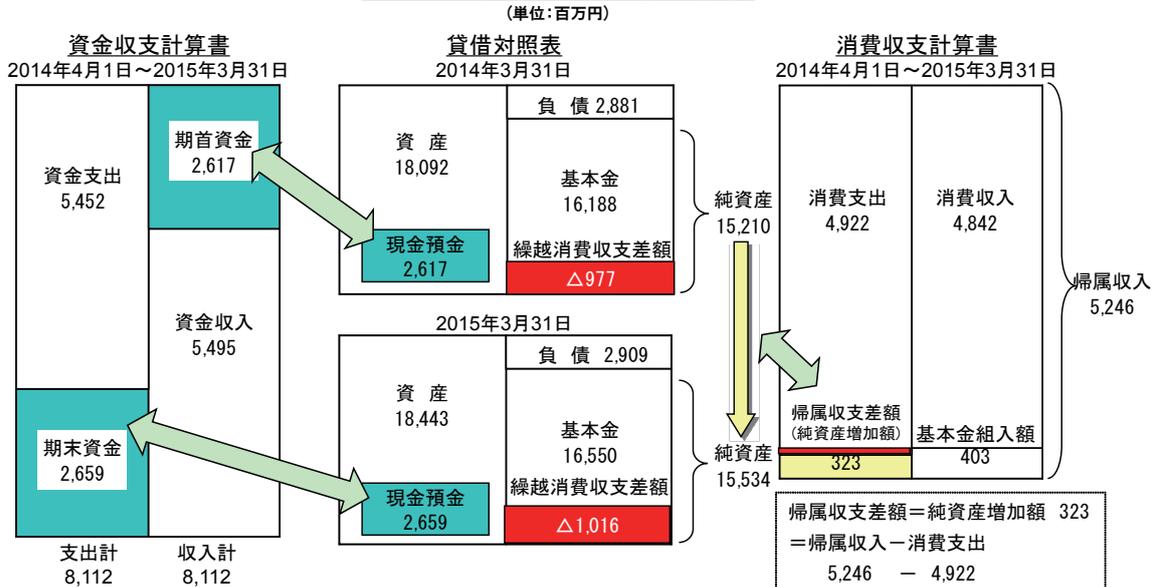
(単位:百万円)

消費支出の部				
部門	学校法人	神戸女学院 大学	神戸女学院 高等学部	神戸女学院 中学部
人件費	60	2,476	287	296
教育研究経費	—	1,131	149	147
管理経費	6	310	18	20
借入金等利息	—	2	0	0
資産処分差額	0	4	3	3
徴収不能引当金繰入額	—	0	—	—
消費支出の部合計	67	3,926	459	468
帰属収支差額	△ 44	380	△ 29	17
消費収支差額	△ 44	12	△ 47	△ 0

注)学校法人部門は、昭和55年11月4日付文管企第250号「資金収支内訳表等の部門別計上及び配分について(通知)」により、限定列挙された範囲の取引を計上しています。(いわゆる法人本部業務に係る取引よりも限定された範囲の取引を計上することとなります。例えば、理事会や役員等の庶務に関するなどが該当します。)

(図2)

2014(平成26)年度決算の概要



- ①資金収支計算書：学校法人のその年度の教育研究活動やこれに付随する活動に対応するすべての収入と支出の内容を明らかにし、現金預金の1年間(4月1日～3月31日)の動きを表すものです。
- ②消費収支計算書：学校法人の1年間(4月1日～3月31日)の収支状況を表すものです。
帰属収入と消費支出の内容を明らかにし、また消費支出が消費収入により賄われているかを表します。
「基本金」:取得した施設設備(第1号)+施設設備の将来取得に向けた先行組入れ(第2号)+各種基金(第3号)+運転資金(第4号)
⇒帰属収入のうち、学校法人がその諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべき額として決定した金額
- ③貸借対照表：年度末における学校法人の資産、負債の内容、純資産(資産-負債)の額を明らかにするものです。
また、基本金(維持すべき金額)に対する純資産の過不足状態を消費収支差額として表します。

注:単位未満を切捨表示しているため、内訳等を加算したものと合計等は一致しません。

4 貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末（2015年3月31日）における学校法人の財政状態を明らかにするために作成します。2014年度の本学院の貸借対照表（大

科目レベル）の概要は表4のとおりです。（本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません）

（表4）貸借対照表

（単位：百万円）

資産の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
固定資産	15,627	15,235	392	
有形固定資産	8,905	8,822	83	
土地	1,323	1,323	0	
建物	4,556	4,268	288	ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事やコミュニケーションセンター改修工事、文学部1号館改修工事等による増加です。
構築物	556	532	24	ヴァージニア・クラークソン記念館新築工事、新社交館バリアフリー化整備工事等による増加です。
教育研究用機器備品	463	441	22	中高部の新築・改修工事に伴う機器備品の導入、大学での無線ネットワークシステム導入、LA1-21の机・椅子入替等による増加です。
その他の機器備品	20	23	△ 3	
図書	1,984	1,961	23	図書の購入等による増加です。
車両	0	0	0	
建設仮勘定	-	271	△ 271	ヴァージニア・クラークソン記念館完成により本勘定に振り替えました。
その他の固定資産	6,721	6,413	308	
教育研究用ソフトウェア	28	38	△ 10	減価償却に伴う減少です。
その他のソフトウェア	21	17	4	
電話加入権	3	3	0	
有価証券	406	406	0	政府関係機関債を保有しています。
差入保証金	3	3	△ 0	
出資金	20	19	1	
貸与奨学金	260	277	△ 17	返還額が貸与額を上回ったことによる減少です。
退職給与引当特定資産	1,484	1,456	28	将来の退職金の支払を想定した特定資産です。一部の事業債や金銭信託、銀行預金等で運用しています。
減価償却引当特定資産	3,136	3,136	0	減価償却対象資産の将来の更新を目的とした特定資産です。地方債や一部の事業債、金銭信託、銀行預金等で運用しています。
岡田山建築保存引当特定資産	103	81	22	岡田山キャンパスの創建建築保存のための費用に充てることを目的とした特定資産です。内容は銀行預金です。
第3号基本金引当資産	1,251	970	281	第3号基本金に係る資産であり、基本金組入額の増加によるものです。地方債や金銭信託、銀行預金で運用しています。
その他	0	0	0	
流動資産	2,816	2,857	△ 41	
現金預金	2,642	2,599	43	現預金は、前年度比43百万円増の26億42百万円となりました。
修学旅行費預り資産	16	17	△ 1	現預金のうち、中高部の修学旅行等費用の預り金に対応する額を区分して表示しています。
未収入金	146	229	△ 83	補助金や私学退職金財団からの交付金収入が主な内容です。
前払金	9	10	△ 1	
資産の部合計	18,443	18,092	351	以上により、資産の部合計は、前年度比3億511百万円の増となりました。

(単位:百万円)

負債の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
固定負債	1,856	1,706	150	
長期借入金	366	246	120	全て日本私立学校振興・共済事業団からの借入金であり、新規借入(2億36百万円)と短期借入金への振替(1億15百万円)によるものです。
退職給与引当金	1,484	1,456	28	期末要支給額がやや増加したうえ、退職金財団に対する掛金と交付金のバランスが引当増の方向に影響したことによる増加です。
長期未払金	5	4	1	割賦購入の増加によるものです。
流動負債	1,052	1,175	△ 123	
短期借入金	115	102	13	借入金のうち、1年以内に返済予定のものです。
未払金	137	156	△ 19	前年度に比べ、設備関連等の未払金が減少したことによるものです。
前受金	710	821	△ 111	主に、翌年度の授業料や入学金などの前受金を計上しており、大学入学金を40万円から20万円に減額したことによる減少です。
預り金	73	77	△ 4	
修学旅行費預り金	16	17	△ 1	預り金のうち、中高部の修学旅行等費用分を区分して表示しています。
負債の部合計	2,909	2,881	28	

基本金の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
第1号基本金	14,925	14,844	81	本年度の増加額は、学校法人が保有する固定資産のうち、新たに取得した基本財産を基本金として組入れた金額の合計です。本年度は新築資金借入による未組入が発生し、基本金は81百万円の増加に留まっています。
第3号基本金	1,251	970	281	奨学基金等に組入れた金額の合計であり、遺贈による新たな奨学基金の設定等により増加しています。
第4号基本金	373	373	0	運営に必要な運転資金として恒常的に保持すべきとされる金額であり、教職員人件費支出、教育研究経費・管理経費支出及び借入金利息支出の1ヶ月分です。増減はありません。
基本金の部合計	16,550	16,188	362	

消費収支差額の部				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
翌年度繰越消費収入(△支出)超過額	△ 1,016	△ 977	△ 39	消費収支差額の部は、支出超過が前年度より39百万円拡大し、10億16百万円の繰越消費支出超過となりました。
消費収支差額の部合計	△ 1,016	△ 977	△ 39	

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計				
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	(A)-(B)	増減要因等
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	18,443	18,092	351	

5 財務データの推移

過去10年間の消費収支計算書、貸借対照表の概要及び財務諸比率の推移は表5のとおりです。(本表では、消費収支計算書、貸借対照表は、単位未満を切

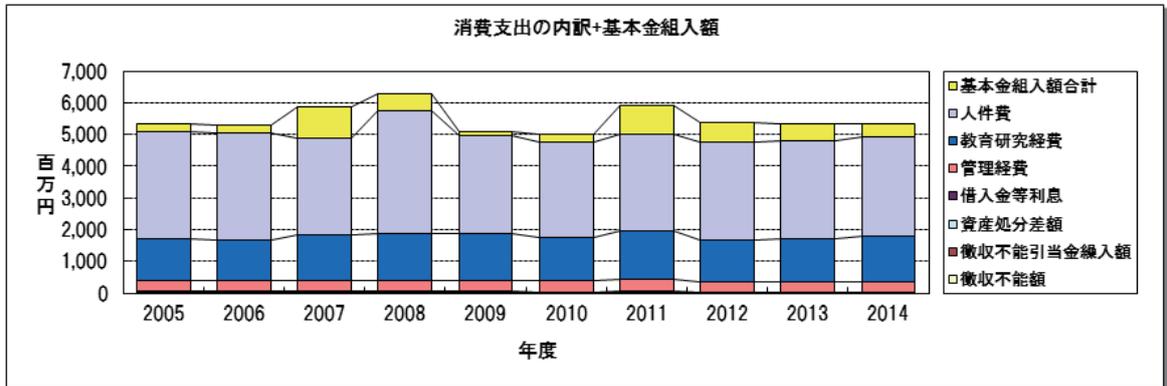
捨表示しているため、内訳を加算したものと合計は一致しません。また、財務諸比率は単位未満を四捨五入して表示しています)

(表5)財務データ推移

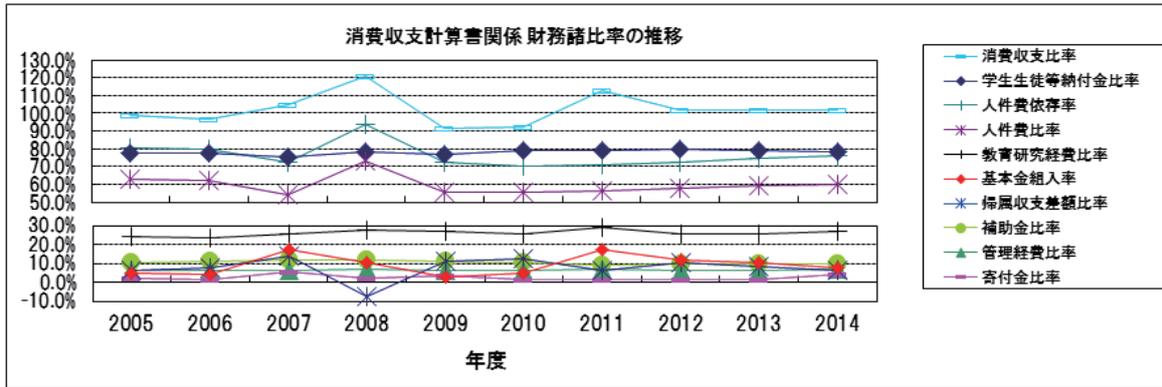
①消費収支計算書関係



	(年度、単位:百万円)									
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
学生生徒等納付金	4,189	4,229	4,245	4,154	4,262	4,283	4,231	4,231	4,151	4,093
手数料	104	106	105	99	96	97	98	89	90	94
寄付金	112	73	329	112	210	73	82	75	70	211
補助金	571	605	647	613	619	562	491	520	489	515
資産運用収入	28	37	53	76	103	115	100	68	59	74
資産売却差額	0	0	2	0	0	-	93	0	26	0
事業収入	105	100	102	95	87	109	61	92	91	87
雑収入	284	306	153	170	179	178	175	211	252	169
帰属収入合計	5,397	5,459	5,640	5,322	5,560	5,420	5,335	5,290	5,232	5,246
基本金組入額合計	△ 274	△ 233	△ 983	△ 560	△ 161	△ 262	△ 924	△ 628	△ 535	△ 403
消費収入の部合計	5,123	5,226	4,656	4,761	5,398	5,157	4,411	4,661	4,697	4,842



	(年度、単位:百万円)									
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
人件費	3,381	3,374	3,060	3,876	3,084	3,016	3,013	3,062	3,093	3,122
教育研究経費	1,315	1,274	1,428	1,458	1,480	1,367	1,549	1,342	1,341	1,428
管理経費	321	351	331	360	335	337	355	321	333	355
借入金等利息	45	42	39	35	32	29	26	10	4	3
資産処分差額	13	17	12	6	11	9	40	7	15	11
徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0
徴収不能額	2	-	3	1	-	-	0	-	-	-
消費支出の部合計	5,078	5,059	4,876	5,738	4,945	4,761	4,986	4,749	4,788	4,922
帰属収支差額	319	399	763	△ 416	614	658	348	541	444	323
消費収支差額	44	166	△ 220	△ 976	453	396	△ 575	△ 87	△ 91	△ 80



	(年度、単位：%)										
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
人件費比率	62.6%	61.8%	54.3%	72.8%	55.5%	55.7%	56.5%	57.9%	59.1%	59.5%	
人件費依存率	80.7%	79.8%	72.1%	93.3%	72.4%	70.4%	71.2%	72.4%	74.5%	76.3%	
教育研究経費比率	24.4%	23.3%	25.3%	27.4%	26.6%	25.2%	29.1%	25.4%	25.6%	27.2%	
管理経費比率	6.0%	6.4%	5.9%	6.8%	6.0%	6.2%	6.7%	6.1%	6.4%	6.8%	
学生生徒等納付金比率	77.6%	77.5%	75.3%	78.1%	76.7%	79.0%	79.3%	80.0%	79.3%	78.0%	
寄付金比率	2.1%	1.4%	5.8%	2.1%	3.8%	1.3%	1.5%	1.4%	1.4%	4.0%	
補助金比率	10.6%	11.1%	11.5%	11.5%	11.2%	10.4%	9.2%	9.8%	9.4%	9.8%	
帰属収支差額比率	5.9%	7.3%	13.5%	△ 7.8%	11.1%	12.2%	6.5%	10.2%	8.5%	6.2%	
消費収支比率	99.1%	96.8%	104.7%	120.5%	91.6%	92.3%	113.1%	101.9%	101.9%	101.7%	
基本金組入率	5.1%	4.3%	17.4%	10.5%	2.9%	4.8%	17.3%	11.9%	10.2%	7.7%	

【参考】

比率名	計算式	考え方	本学院 2014年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
人件費比率	人件費 ÷ 帰属収入 × 100	低い値が良い	59.5%	49.0%	52.4%	49.6%
人件費依存率	人件費 ÷ 学生生徒等納付金 × 100	低い値が良い	76.3%	94.5%	72.4%	96.9%
教育研究経費比率	教育研究経費 ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	27.2%	36.4%	31.5%	35.2%
管理経費比率	管理経費 ÷ 帰属収入 × 100	低い値が良い	6.8%	7.0%	8.8%	7.7%
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 ÷ 帰属収入 × 100	どちらとも言えない	78.0%	51.8%	72.4%	51.2%
寄付金比率	寄付金 ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	4.0%	2.2%	2.2%	1.4%
補助金比率	補助金 ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	9.8%	10.5%	12.8%	12.4%
帰属収支差額比率	(帰属収入 - 消費支出) ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	6.2%	6.0%	5.2%	5.9%
消費収支比率	消費支出 ÷ 消費収入 × 100	低い値が良い	101.7%	105.6%	107.8%	106.2%
基本金組入率	基本金組入額 ÷ 帰属収入 × 100	高い値が良い	7.7%	11.0%	12.1%	11.4%

資料：「平成26年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

注 1：全国平均(543大学法人)、全国平均(医歯系除く)(504大学法人)、同規模平均(112大学法人)は、2013(平成25)年度決算の平均値

注 2：同規模平均は、学生生徒数3~5千人規模の大学法人の平均値

② 貸借対照表関係

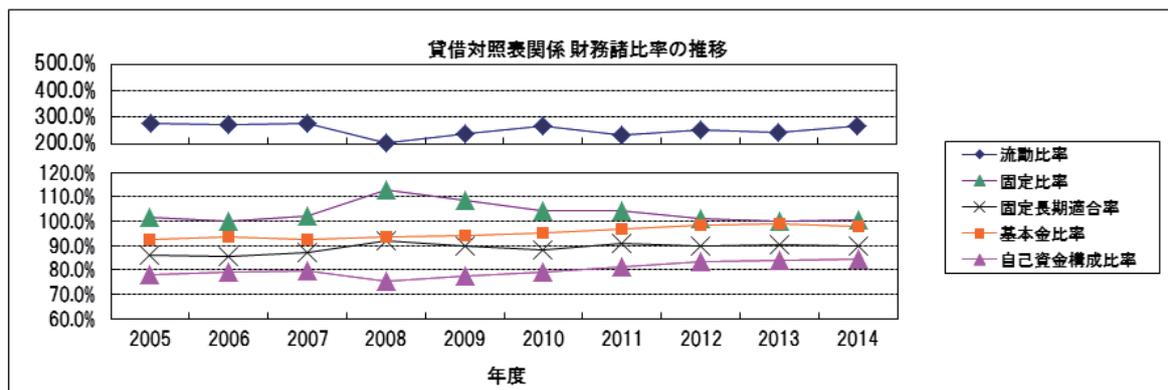


	(年度、単位：百万円)										
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	
有形固定資産	7,481	7,393	8,359	8,547	8,587	8,412	8,622	8,611	8,822	8,905	
その他の固定資産	4,584	4,850	4,895	5,681	5,727	6,072	6,211	6,316	6,413	6,721	
流動資産	3,139	3,315	3,067	2,458	2,814	3,108	2,699	2,768	2,857	2,816	



(年度、単位:百万円)

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
固定負債	2,215	2,090	2,193	2,883	2,722	2,544	2,138	1,829	1,706	1,856
流動負債	1,133	1,213	1,110	1,199	1,189	1,171	1,169	1,100	1,175	1,052
基本金の部	11,923	12,156	13,135	13,696	13,839	14,099	15,023	15,652	16,188	16,550
消費収支差額の部	△ 68	98	△ 116	△ 1,093	△ 621	△ 222	△ 798	△ 886	△ 977	△ 1,016
【参考】自己資金 (基本金+消費収支差額)	11,855	12,255	13,018	12,602	13,217	13,876	14,225	14,766	15,210	15,534



(年度、単位:%)

	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
流動比率	276.8%	273.2%	276.2%	204.9%	236.6%	265.3%	230.8%	251.5%	243.1%	267.6%
固定比率	101.8%	99.9%	101.8%	112.9%	108.3%	104.4%	104.3%	101.1%	100.2%	100.6%
固定長期適合率	85.8%	85.3%	87.1%	91.9%	89.8%	88.2%	90.6%	90.0%	90.1%	89.9%
基本金比率	92.6%	93.3%	92.6%	93.6%	94.2%	94.9%	96.9%	98.6%	98.8%	97.7%
自己資金構成比率	78.0%	78.8%	79.8%	75.5%	77.2%	78.9%	81.1%	83.4%	84.1%	84.2%

【参考】

比率名	計算式	考え方	本学院 2013年度	全国平均	全国平均 (医歯系除く)	同規模平均
流動比率	流動資産÷流動負債×100	高い値が良い	267.6%	243.4%	245.9%	308.7%
固定比率	固定資産÷自己資金×100	低い値が良い	100.6%	100.5%	99.2%	95.3%
固定長期適合率	固定資産÷(自己資金+固定負債)×100	低い値が良い	89.9%	91.2%	91.7%	88.1%
基本金比率	基本金÷基本金要組入額×100	高い値が良い	97.7%	96.9%	97.1%	97.3%
自己資金構成比率	自己資金÷総資金×100	高い値が良い	84.2%	85.5%	87.4%	87.5%

資料:「平成26年度版今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)

注 1: 全国平均(543大学法人)、全国平均(医歯系除く)(504大学法人)、同規模平均(112大学法人)は、2013(平成25)年度決算の平均値

注 2: 同規模平均は、学生生徒数3~5千人規模の大学法人の平均値

注 3: 自己資金=基本金+消費収支差額、総資金=負債+基本金+消費収支差額

IV. 事業計画

1 今後の運営方針及び2015年度予算編成について

神戸女学院は創立以来、キリスト教信仰と国際理解の精神を教育の根幹に、リベラルアーツ&サイエンス教育を実践し女子教育における先駆的な役割を果たしてきました。社会における女性の活躍に一層の期待が高まる中、本学院には教育理念を堅持しつつ改革を押し進め、女子教育の使命を高めて行くことが強く求められています。2015年度もリベラルアーツ&サイエンス教育の充実、学習支援環境の整備等を取り組みの柱として教育改革の実現に資する事業計画を推進します。

収入面では2015年度から募集力強化を目的として、大学入学金を20万円（現行40万円）に減額したうえ、音楽学部を除いて新生生の授業料を年額5.5万円増額改定します。この学費改定他により、翌年度の学生生徒等納付金収入は前年度当初予算比で1億61百万円減の39億64百万円となり、事業活動収入〔旧：帰属収入〕では97百万円減の48億86百万円となる見込みです。しかし、新たな授業料が全学年に適用される2018年度に、学生生徒等納付金収入は学費改定前の水準まで回復する見通しです。国の財政状況等による補助金の固定化また超低金利下での資産運用等厳しい背景がありますが、引き続き収入源の複線化に努めて行きます。

支出面では、文学部2号館45教室の整備、理学館や岡田山ロッジほか複数建物のトイレ改修、さらに第2体育館の空調設備工事など施設関係整備に予算措置を行い、学生、生徒の学習、生活環境の利便性向上を図ります。また恒常的に大きな予算を要する学生募集や情報環境整備については、特に投資効果を検証

しながら計画的に措置して行きます。昨年重要文化財に指定されたヴォーリズ設計の校舎群の保存維持をはじめ、今後のキャンパス構想については10年後の創立150周年を視野に入れ中長期整備計画の立案に着手します。人件費、教育研究経費、管理経費、施設・設備費を柱とする翌年度の事業活動支出〔旧：消費支出〕は合計で48億71百万円となる見込みです。結果2015年度の単年度収支に相当する基本金組入前当年度収支差額〔旧：帰属収支差額〕は僅少の14百万円に留まり、基本金組入後の翌年度繰越収支差額〔旧：翌年度繰越消費支出超過額〕は14億99百万円に拡大する見込みです。以上のように厳しい収支状況が続きますが、競争力の維持、向上は欠くことができず、今後とも教育、研究、学習支援、学生・生徒募集、管理運営等の多岐に亘る事業計画に的確に予算措置し、併せて予算執行規律の健全化を強めて行きます。

なお、今般約40年ぶりに学校法人会計基準が改正され、2015年度予算から新基準が適用されます。学校法人会計固有の「基本金」等、根本的な体系に変更はありませんが、学校法人の財務基盤等についてステークホルダーの理解を促すことを目的とした改正です。従来の資金収支計算書に加えて「活動区分資金収支計算書」を新設、また「消費収支計算書」が「事業活動収支計算書」に変更されました。資金の流れを「教育」「施設設備」「財務」の活動別に区分し、また事業活動の収支源泉を「教育」と「教育外」、あるいは「経常」と「特別」に峻別し、よりの確な経営判断へ導くための体系となっています。

2 2015年度事業計画

教育・研究

a) 共通英語教育研究センターレポートの発行

新カリキュラムの狙い、教育方法など共通英語教育研究センターの新しい取り組みや所属教員の研究活動をまとめ、高校の英語科教員、全国の大学の共通英語担当部署へ配布し、本学における共通英語教育改革の取組みについて発信していきます。

b) 音楽学部「音大連携による教育イノベーション 音楽コ

ミュニケーション・リーダー養成

東京音楽大学、昭和音楽大学と連携した共通講座の開講、地方公共ホールとの連携プロジェクト、またザルツブルグ音楽院のウェブ・レッスン等を実施します。

c) 音楽学部「舞踊年度公演」「舞踊卒業公演」

音楽学科舞踊専攻学生の年度学習の成果発表としての「舞踊年度公演」、4年間の習得の総まとめとしての「舞踊卒業公演」を実施します。

d) 人間科学部「プライベートブランド(アミノ酸入りゼリー)」の商品化

人間科学部高岡教授の共同研究成果として「アミノ酸入りゼリー」を神戸女学院ブランドとして開発し、当該商品の販売を通じて研究成果を対外的に発信していくことで、研究支援と本学アピールという相乗効果を得られるよう取り組みます。

e) 全学部「早期離職抑制のためのキャリア支援」

OG やキャリアカウンセラーを活用して学内 OG 訪問会を開催し、学生への情報提供を充実させることで、よりきめ細やかな就職支援体制を整備します。また、外部のキャリアカウンセラーを活用し、個別面談やES 添削の充実を図ります。

f) 全学部「就職率向上のための就職支援」「フロントランナー育成のための特別講座」

全就職希望者を対象とした面談の実施や、就職支援講座（筆記試験対策講座、SPI 模擬試験や対策講座、GD 実践講座等）の開講により、就職支援体制の強化を図ります。さらに、意識の高い学生向けの就職支援講座（KC キャリア塾、企業・業界研究ワークショップ、KC エアラインスクール等）を開講し、就職状況の向上を目指します。

その他の事業

a) 企画評価室「大学基準協会認証評価受審」

前回は、2008年度に（財）大学基準協会による大学評価ならびに認証評価を受けた（有効期間：2009年4月～2016年3月）ため、2015年度に評価を受ける段取りで準備を進めています。

b) 「神戸女学院大学第6回絵本翻訳コンクール」の実施

全国の高校生を対象とした「絵本翻訳コンクール」を実施します。

施設・設備

a) 建物等の改修

2015年度は、ミリアム館の風呂場改修や岡田山ロッジ、文学部2号館、理学館、第2体育館のトイレ改修など、水回りの改修工事に注力します。

また、3ヶ年計画で学生寮個室家具の更新を予定しており、2015年度はチェストの取替を行います。その他、図書館新館エレベーターの更新、第2体育館や文学部2号館の空調設備改修等を行います。

b) 教室・AV設備等の整備

大学において、文学部2号館45教室の机・椅子入替を予定しています。また、2014年度に引き続き、学内LAN環境の無線化を促進していきます。さらに、2016年度に予定している教育・ネットワークシステムのリプレイスに向けて、情報収集や要求仕様作成などの分析支援を受け、準備を進めます。その他、音楽館ホールピアノのオーバーホールや、前年度に引き続き、デフォレスト記念館小教室の映像設備更新等を行い、教育研究活動の向上を図ります。

中高部では図書館システムや校内放送の基本設備のリニューアル等を行います。

c) 安全対策

重要文化財の指定を受けて、ケンウッド館、汽罐室、茶室に自動火災報知器を設置するとともに、ケンウッド館、汽罐室、理学館から体育館の渡り廊下他木造建築物の耐震性能を明確にする必要があるため、現時点での耐震診断を実施します。

d) 管理体制の強化

セキュリティレベルの向上を図るため、鍵管理システムを導入します。また、学院の資産をより適切に管理するため、ファシリティマネジメントシステムを導入します。

3 2015年度予算書

2015年度の資金収支予算書は表6、事業活動収支予算書は表7のとおりです。(本表では、単位未満を切捨表示しているため、内訳を加算したものと合計

は一致しません。) なお、2014年度の数値は新基準ベースに組み替えて表示しています。

(表6)資金収支予算書

(単位:百万円)

収入の部					2015年度当初予算の内容
科 目	2014年度 予算	2014年度 決算(A)	2015年度 予算(B)	(B)-(A)	
学生生徒等納付金収入	4,094	4,093	3,964	△ 129	2015年度入試による入学人数を中学部140人、大学630名と見込み、大学での入学金減額(40万円から20万円)および音楽学部を除く新入生の授業料増額(年額5.5万円増)の影響を加味しています。
手数料収入	94	94	94	0	Webの有効活用や成績上位受験生を対象とした広報活動の強化などにより安定した入学者確保に努めますが、厳しい募集環境が続くことが予想されますので、前年度並みとしています。
寄付金収入	200	210	59	△ 151	寄付金収入は、主として教育振興金を通じての一般寄付の見込額を計上しています。2014年度は大口寄付金を受けたため、特殊要因を除いて2015年度の予算を見込みました。
補助金収入	511	515	491	△ 24	経常費補助金はほぼ前年度予算並みの収入を見込んでいますが、2015年度は施設設備補助金が減少する見込みであり、前年度実績比24万円減の4億91百万円の予算を見込んでいます。
資産売却収入	0	0	-	△ 0	2014年度は車両の下取り費用を計上していましたが、2015年度は資産売却の予定はありません。
付随事業・収益事業収入	87	87	56	△ 31	2015年度は、学生寮の個室家具更新や修繕計画により補助活動事業収入が減少する見込みであるため、全体として31万円減の56万円を予算として見込んでいます。
受取利息・配当金収入	61	67	72	5	2014年度に開始した金銭信託の運用収入が過年分計上されるようになることから、前年度よりも増収となる見込みです。
雑収入	151	175	147	△ 28	主として定年退職予定者の退職金財団交付金を計上しており、当該収入が2014年度より微減する見込みであるため、雑収入全体でみると、前年度実績比28万円減の1億47百万円となる見込みです。
借入金等収入	236	236	-	△ 236	2014年度はヴァージニア・クラークソン記念館新築資金の借入分を計上していましたが、2015年度は新規借入の予定はありません。
前受金収入	687	710	687	△ 23	2016年度入学人数も、例年同様、中学部140名、大学630名として予算化していますが、募集環境は依然厳しいと見込まれることから、前年度予算と同額を見込んでいます。
その他の収入	272	272	167	△ 105	主な内訳は、前期末未収入金収入と賞与奨学金回収収入であり、前期末未収入金に計上していた退職金財団交付金収入が退職者減により減少したため、前年度比では1億5百万円の減となる見込みです。
資金収入調整勘定	△ 946	△ 968	△ 801	167	前期末未収入金と前期末前受金で構成されており、主に、大学入学金減額による前期末前受金の減少により、調整額が1億67百万円減少する見込みです。
前年度繰越支払資金	2,617	2,617	2,600	△ 17	
収入の部合計	8,067	8,112	7,538	△ 574	
支出の部					2015年度当初予算の内容
科 目	2014年度 予算	2014年度 決算(A)	2015年度 予算(B)	(B)-(A)	
人件費支出	3,080	3,093	3,010	△ 83	2015年度の退職金支出は定年退職者のみで計算しており、定年退職者の減少により、人件費支出も減少する見込みです。
教育研究経費支出	1,161	1,128	1,152	24	経常的な教育研究経費に加え、システム環境や授業・教育環境の改善を図るための設備投資にかかる費用についても追加で見込んでいます。
管理経費支出	334	324	346	22	2015年度も引き続き入試広報の強化を図るため、募集関連経費の増加を見込んでいます。また、管理体制の強化を図るための整備費用も含まれています。
借入金等利息支出	3	3	2	△ 1	借入金の約定返済に伴い、支出減を見込んでいます。なお、2014年度新規借入分については無利息期間のため利息は発生していません。
借入金等返済支出	102	102	115	13	約定返済分を予算として見込んでいます。増加分は2014年度新規借入分の約定返済額です。
施設関係支出	280	279	115	△ 164	ミリアム館の風呂場改修や岡田山ロッジ、文学部2号館、理学館、第2体育館のトイレ改修、図書館新館エレベーターの更新、第2体育館や文学部2号館の空調設備改修等を予定しています。
設備関係支出	138	139	115	△ 24	大学では、文学部2号館45室の机・椅子入替や学内LAN環境の無線化促進、中高部では図書管理システムのリニューアル等、管理部門では人事システム更新やFMシステム導入等を計画しています。
資産運用支出	303	331	143	△ 188	2011年度より奨学金の充実を目的として第3号基本金に毎年1億円ずつ積み増しています。2014年度は新たな奨学金設定に伴う第3号基本金への追加組入がありました。2015年度は例年並みとなる予定です。
その他の支出	193	197	169	△ 28	設備関係未払金の減少による前期末未払金の減少を見込んだこと等により、前年度実績比28万円減の予算としています。
資金支出調整勘定	△ 128	△ 146	△ 110	36	2014年度期末の未払金について、設備未払金を計上しない前提で予算を見込んだ結果、前年度実績比36万円減の予算となりました。
翌年度繰越支払資金	2,600	2,659	2,479	△ 180	
支出の部合計	8,067	8,112	7,538	△ 574	

(表7)事業活動収支予算書

(単位:百万円)

		2014年度 予算	2014年度 決算(A)	2015年度 予算(B)	(B)-(A)	2015年度当初予算の内容	
教育活動収支	事業活動収入の部	科目					
		学生生徒等納付金	4,094	4,093	3,964	△ 129	資金収支計算書と同様です。
		手数料	94	94	94	0	
		寄付金	178	186	41	△ 145	施設設備寄付金以外の寄付金を計上しています。なお、現物寄付は全て施設設備寄付金と仮定し、2014年度に受けた大口寄付という特殊要因を除いて予算を見込んでいます。
		経常費等補助金	478	481	475	△ 6	施設設備補助金以外の補助金を計上しており、ほぼ前年度並みの収入を見込んでいます。
		付随事業収入	87	87	56	△ 31	
		雑収入	151	175	147	△ 28	資金収支計算書と同様です。
	教育活動収入計	5,085	5,119	4,779	△ 340		
	事業活動支出の部	科目					
		人件費	3,095	3,122	3,022	△ 100	資金収支計算書から退職金支出を控除し、退職給与引当金繰入額を加算しています。
		教育研究経費	1,448	1,428	1,456	28	資金収支計算書に減価償却費(3億4百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
		管理経費	366	355	379	24	資金収支計算書に減価償却費(33百万円)を加算しています。内容は、資金収支計算書と同様です。
		徴収不能額等	-	0	-	△ 0	
	教育活動支出計	4,909	4,907	4,857	△ 50		
教育活動収支差額	176	212	△ 77	△ 289			
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目					
		受取利息・配当金	61	67	72	5	資金収支計算書と同様です。
		その他の教育活動外収入	-	-	-	0	
	教育活動外収入計	61	67	72	5		
	事業活動支出の部	科目					
		借入金等利息	3	3	2	△ 1	資金収支計算書と同様です。
		その他の教育活動外支出	-	-	-	0	
	教育活動外支出計	3	3	2	△ 1		
	教育活動外収支差額	57	64	69	5		
	経常収支差額	234	276	△ 7	△ 283		
特別収支	事業活動収入の部	科目					
		資産売却差額	0	0	-	△ 0	
		その他の特別収入	55	58	34	△ 24	施設設備寄付金17百万円、現物寄付金1百万円、施設設備補助金16百万円を予算計上しています。2015年度は施設設備関連の補助対象事業が少ないこと等により、2014年度実績比では24百万円減となっています。
	特別収入計	55	58	34	△ 24		
	事業活動支出の部	科目					
		資産処分差額	12	11	12	1	前年度並みの除却費用が発生する見込みです。
		その他の特別支出	-	-	-	0	
	特別支出計	12	11	12	1		
	特別収支差額	43	47	22	△ 25		
	基本金組入前当年度収支差額	277	323	14	△ 309		
基本金組入額合計	△ 462	△ 403	△ 352	51	岡田山ロッジをはじめとするトイレ改修や文学部2号館45室の机・椅子人替等に伴う第1号基本金組入や、奨学金等の充実を図るための第3号基本金組入を予定しています。		
当年度収支差額	△ 184	△ 80	△ 337	△ 257			
前年度繰越収支差額	△ 977	△ 977	△ 1,162	△ 185			
基本金取崩額	-	41	-	△ 41	2014年度は、ヴァージニア・クラークソン記念館新築工費資金の借入実行により基本金を取り崩しましたが、2015年度は基本金取崩を要する事業計画はありません。		
翌年度繰越収支差額	△ 1,162	△ 1,016	△ 1,499	△ 483			
(参考)							
事業活動収入計		5,201	5,246	4,886	△ 360		
事業活動支出計		4,924	4,922	4,871	△ 51		



学校法人 神戸女学院

〒 662-8505 西宮市岡田山 4-1 電話 0798-51-8508 (経理課)
<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/index.html>